

遠 い 道

「集団のもつ相互作用が、ひとりひとりの学習意欲や積極性を養い、創造力や思考力を高めながら学力を向上させ、併せて生徒相互の人間関係を深め、協調性や社会性を伸ばす」という仮説のもとにバズ学習にとりくみはじめて、もう十年になります。

当初は生徒の学習意欲が低く、教師がいくら熱心に指導しても学習効果があがらず、生徒相互に暖かい心の結びつきがなく、競走的・排他的な状況が続いておりました。この状況から脱皮するためには、ひとりの教師ではどうにもなりません。どうしてもすべての教師が学校ぐるみでとりくまねば効果はあがりません。しかも毎年4月の大幅な教員異動のため、いつもゼロからの出発を余儀なくされます。このような難しい状況で十年間続けてこられたのは、教育のもつさまざまな局面の統合化をめざすバズ学習理論があったからだと思います。また、その実践的な理論追求を軸にしながら、授業の場面で派生するじつにさまざまな問題にとりくむための試行錯誤そのものが、研究体制を支えてきたと言えます。

以来、中だるみの時期もありましたが、課題・授業構造・態度目標等々の研究をすすめるうちに、「評価」の問題につきあたりました。授業の過程で生徒自身が「なにがわかってなにがわからないか」を確め、みずから解決しようとする態度を養成することと、教師は「なにをどのように教え、どうおさえるか」ということの大事さ、つまり自己評価・即時評価の意義と方法にとりくむことになったのであります。当然のことを意識化したにすぎないのでしょうか。これにとりくみはじめてから、職員室のあちこちで授業計画や実践上の問題が話し合われたり、授業後も遅くまで議論され、活気のある雰囲気とくに目立ってまいりました。わたしたちの歩みは、いま、また新しく第一歩を踏みだしたところといえます。

今回のバズ学習研究集会が本校で開催されるのを機会として、評価活動を授業過程にくみ入れることの試みを、実際の授業を通して発表したいと思います。それぞれの部会において、厳しいご批判、ご指導をいただき、今後の実践研究に生かしたいと期待しております。

昭和50年11月10日

学校長 梶 田 稻 司

も く じ

学 校 長	
も く じ	
日 程	3
開 会 行 事	4
授 業 の 視 点	5
校 舎 平 面 図	6
一 般 公 開 授 業 ， 特 設 授 業 指 導 案 も く じ	7
一 般 公 開 授 業 指 導 案	8
特 設 授 業 指 導 案	66
教 科 別 要 項	88
テ ー マ 別 分 科 会	108
全 体 討 議	109
講 演	110
会 場 案 内 図	111



日 程

第1日	11月28日 (金)	春日井市立東部中学校
	8:30 ~ 9:00	受 付
	9:00 ~ 9:40	開会行事
	9:50 ~ 10:35	公開授業
	10:35 ~ 11:00	短学活公開
	11:20 ~ 12:05	特設公開授業
	12:05 ~ 12:50	昼 食
	12:50 ~ 13:40	教科別授業研究会
	14:00 ~ 16:30	テーマ別分科会
	16:30 ~ 18:00	会場移動 (研修センターへ)
	18:00 ~ 19:00	夕 食 (懇談会)

第2日	11月29日 (土)	愛知県労働者研修センター
	8:30 ~ 9:00	受 付
	9:00 ~ 10:20	全体討議
	10:30 ~ 11:30	講 演
	11:30 ~ 11:50	質 疑
	11:50 ~ 12:00	閉会行事

開 会 行 事 9:00 ~ 9:40

1. 挨拶 榎 春日井市立東部中学校長 梶 田 稲 司
講師紹介

2. 祝 辞

3. 歓迎の辞 春日井市立東部中学校育成会長 中 野 久 一

4. 授業の視点説明 春日井市立東部中学校教務主任 右 高 徳 夫

5. 日程説明 春日井市立東部中学校教頭 小 山 克 己

本校における研究の方向と授業の視点

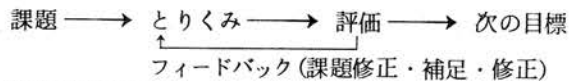
1. はじめに

個別化か集団化かが論じられているが、生徒が自主的・意欲的に学習に参加し、活動したり、ひとりひとりが静かに考えたり、集団思考がそれぞれの場面で効果的に行なわれるためには、学習形態を多様化し、その最適化をはかることが必要である。そのためには、バズ学習の方法が最適であると考えている。

2. 課題と評価

バズ学習に限らず、一時間の授業の流れの中での課題と評価は一体のものであり、そのよし悪しは、授業のよし悪しを左右する大切なものである。したがって、じゅうぶんな教材研究によって、目標に到達するための適切な課題の設定と、評価を考えなければならない。

また、認知と態度の両輪で学力を高め、人間関係を育てる学習の評価を考える場合、学習内容の深まりとともに、それを喜んで学んだか、友達と協力して学んだかを同時に考える基盤のうえに成りたなければならない。だから、みんなで高め合う学習、あるいは、見方・考え方と人間関係を同時に育てようとする学習では、評価は結果のみでなく、学習過程、学習のしかたが点検されなくてはならない。学習がひとりひとりの変容の経過であるとするならば、結論に至るまでの道のりでのようすを即時評価（自己評価・相互評価）しなければならない。そこでつぎのようなサイクルを考えた。



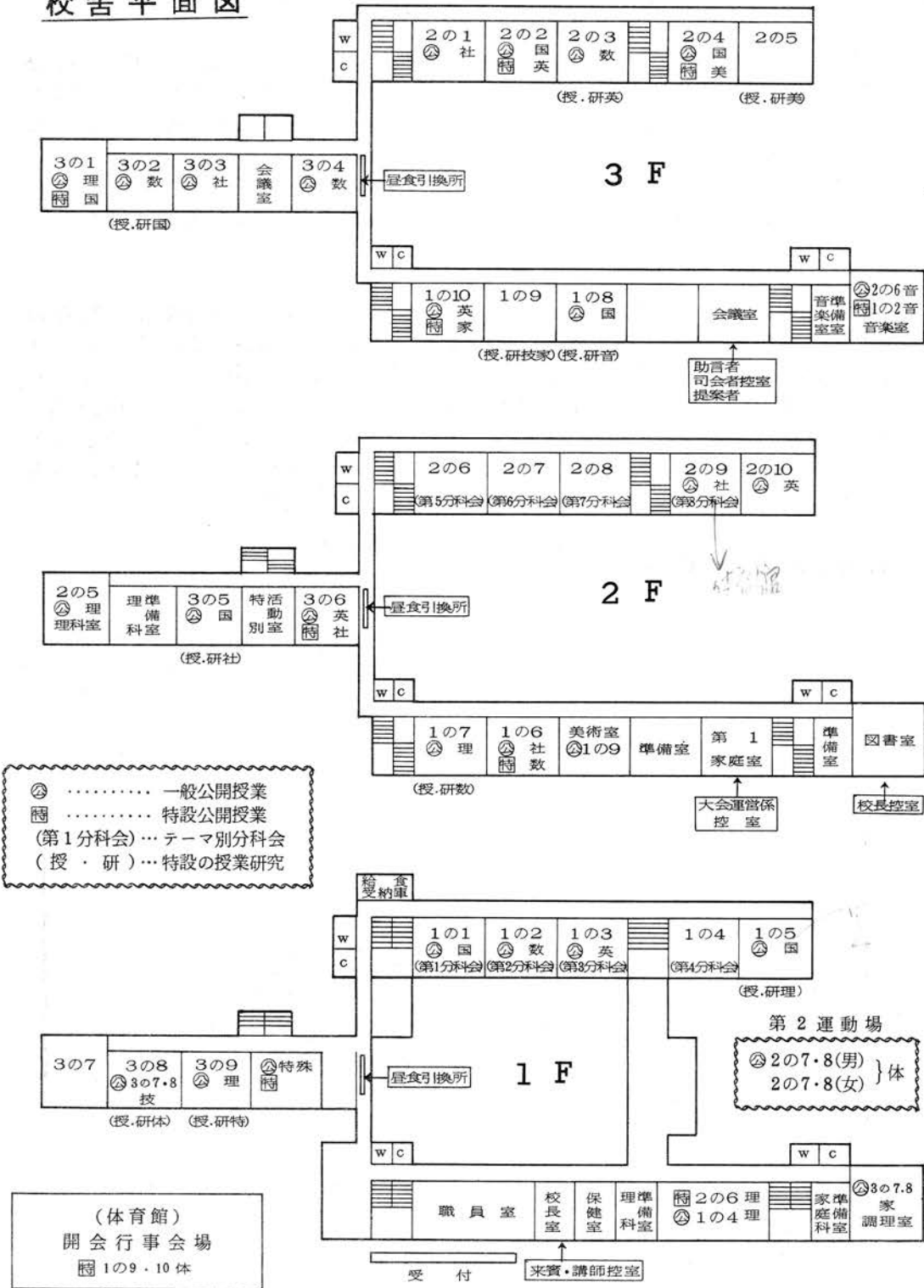
3. 基本的な授業の組み立て

過程	準備	中心	確認
	課題→まず自分で→話し合う→評価	課題→まず自分で→話し合う→評価	課題→まず自分で→話し合う→時間の評価
活動と内容	<ul style="list-style-type: none"> 目標の具体化。共通課題の設定。 めあての確認。学習を見通す。 学習計画。学習の順序の検討。 (わかること、わからないことの確認) 	<ul style="list-style-type: none"> 弁証法的思考の具体化・作業化。(比較・反対・賛同・その他) 評価活動。 つまずきの克服。 学習のたしかめ。 	<ul style="list-style-type: none"> 相互補正 定着 適応 フィードバック 練習と応用。 短学活・家庭学習へ。 次の学習への見通しをたてる。
資料 評価	<ul style="list-style-type: none"> 注意を集中する提示。(具体物 OHP その他) 内容の具体的提示。 プリテスト。 自己評価。 観察。 	<ul style="list-style-type: none"> 記憶の持続、定着を高める提示。 行動、考え方の範例提示。 共同思考を助ける提示。 相互評価。 (OHP・評価表・ノート・反応器・巡視・その他。) 	<ul style="list-style-type: none"> ノート。 学習プリント。 観察 ポストテスト。(定着度・変容) 自己評価 相互評価 プロフィール

4. 授業の視点

- 各過程における課題は適切か。
- 各課題に対する評価はくふうされ、適切におこなわれているか。
- 課題に対する生徒のとりくみはどうか。
- 目標は達成されたか。

校舎平面図



⊙ …… 一般公開授業
 ⊕ …… 特設公開授業
 (第1分科会)…テーマ別分科会
 (授・研)…特設の授業研究

一般公開授業指導案 目次

<p>< 国語科 ></p> <p>1の1 松本 美智代 …… 8</p> <p>1の8 水野 郁子 …… 10</p> <p>2の2 岡村 英勝 …… 12</p> <p>2の4 神戸 豊子 …… 14</p> <p>3の5 宮崎 和恵 …… 16</p> <p>< 社会科 ></p> <p>1の6 細江 幸右 …… 18</p> <p>2の1 丹羽 一男 …… 20</p> <p>2の9 加藤 憲夫 …… 22</p> <p>3の3 奥田 政吉 …… 24</p> <p>< 数学科 ></p> <p>1の2 長谷川 俊彦 …… 26</p> <p>2の3 今泉 仁 …… 28</p> <p>3の2 中条 聡子 …… 30</p> <p>3の4 加藤 孝史 …… 32</p> <p>< 理科 ></p> <p>1の4 阿部 吉一 …… 34</p> <p>1の7 小林 崇男 …… 36</p> <p>2の5 川村 辰子 …… 38</p> <p>3の1 沢村 保雄 …… 40</p> <p>3の9 加納 弘雅 …… 42</p>	<p>< 音楽科 ></p> <p>2の6 長谷川 たつみ …… 44</p> <p>< 美術科 ></p> <p>1の9 奥村 浩康 …… 46</p> <p>< 保健体育科 ></p> <p>2の7・8(男)佐善 康郎 …… 48</p> <p>2の7・8(女)加藤 洋子 …… 50</p> <p>< 技術家庭科 ></p> <p>3の7・8(男)石原 憲 …… 52</p> <p>3の7・8(女)戸田 やす子 …… 54</p> <p>< 英語科 ></p> <p>1の3 渡辺 浩 …… 56</p> <p>1の10 古村 真佐子 …… 58</p> <p>2の10 堀場 正美 …… 60</p> <p>3の6 奥村 富美子 …… 62</p> <p>< 特殊学級 ></p> <p>15 塚本 昇</p>
---	---

特別公開授業指導案 目次

<p>国語 3の1 大脇 希文 …… 66</p> <p>社会 3の6 尾関 昭彦 …… 68</p> <p>数学 1の6 永野 進 …… 70</p> <p>理科 2の6 影山 雅乙 …… 72</p> <p>音楽 1の2 平井 豊秋 …… 74</p>	<p>美術 2の4 林 敏明 …… 76</p> <p>保・体 1の9・10 小森 好治 …… 78</p> <p>技・家 1の9・10 田川 正子 …… 80</p> <p>英語 2の2 川口 四郎 …… 82</p> <p>特殊学級 渡辺 俊二 …… 84</p>
--	--

第1学年1組国語科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 松本美智代

1. 単元 柿山伏(狂言)

2. 学習計画 (4時間完了)

第1時「柿山伏」のあらすじをとらえさせる。

第2時 登場人物の人柄を考えさせる。(本時)

第3時 表現の特色をとらえさせ、古語になれさせる。

第4時 狂言の演出・歴史等について知らせ、やさしい古語を紹介する。

3. 本時の目標

(1) 登場人物の人柄をとらえさせる。

(2) 進んで話し合いに参加する態度を身につけさせる。

4. 準備 朗読評価表・カセット

授業の視点

- | |
|--|
| <p>(1) 指導の調整・学習の調整としての評価活動が見られるか。</p> <p>(2) 個人思考と集団思考のけじめがはっきりしているか。</p> <p>(3) 古典学習に意欲を持って学習しているか。</p> |
|--|

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 朗読「実因僧都の強力」 ○ 朗読の評価表によって相互評価する。 ⑤ ○ 本時の目標を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 観点にそった評価が、なされているか。(机間巡視)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">登場人物の人柄をつかむ方法を考えなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 登場人物の人柄を読みとる方法について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考え → 話し合い → 発表 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えをもってから、話し合うようにさせる。 ◎ 「実因僧都の強力」などで学習した方法を想起させる。 ◎ 登場人物の人柄をつかむ方法が、わかったか。(発表・生徒の反応)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">山伏と百姓の人柄をつかみなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 人柄のでていることばに印をつけながら黙読する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行動・態度・ことばづかいに注意 ○ 山伏と百姓は、それぞれ、どういう人柄か、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 山伏……強力があるといいながら無力で単純、根は善良なまぬけ。 ②① ○ 百姓……頭の回転が早く、機知にとんだしっかり者。 ・ 自分の考え → 話し合い → 発表 ○ 対人法で2人の人柄について説明し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人柄を読みとる際、ポイントとなることばを板書し、活用させる。 ○ 話し合いが活発に進められるように随時指導する。 ○ 生徒の発表をもとに、補足説明を加えながら、2人の人柄についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 時代背景・身分差など ◎ 隣の人に説明できたか。(相互評価挙手)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">読みとったことを生かして、朗読のしかたを考えなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書P 208.209を各班で役割を決め、どのように朗読したらいいかを考えて、練習する。 ○ 班ごとに発表する。 ⑮ ○ 次時の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読みとったことをもとに、狂言のおもしろさを表わせるような朗読ができるようにさせる。 ◎ 人柄がわかるような朗読であるか。(発表・相互評価) ○ カセットで朗読を聞かせ、本時の学習内容を確認させる。

第1学年8組国語科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 水野郁子

1. 題材 柿山伏(狂言)

2. 学習計画(4時間完了)

- 第1時 「柿山伏」のあらすじをとらえさせる。
- 第2時 登場人物の人がらを考えさせる。(本時)
- 第3時 表現の特色をとらえさせ、古語になれさせる。
- 第4時 狂言の演出・歴史等について知らせる。

3. 本時の目標 (1) 登場人物の人がらをとらえさせる。
(2) 進んで話し合いに参加させる。

4. 準備 朗読評価表

授業の視点

- ・古典学習に意欲をもって学習しているか。
- ・個人思考、集団思考のけじめが、はっきりしているか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指導上の留意点・評価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「実因僧都の強力」を各班1名が朗読する。 ○ 朗読の評価表によって相互評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 観点にそった評価がなされているか。 ⑤ • 本時のポイントを板書し、確認させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">登場人物の人がらのあらわれているのはどこか。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 行動、態度、ことばづかいに注意し、人がらがあらわれているところに印をつけながら黙読する。 ○ どんな行動や態度をしているか班で話し合う。→発表する。 ○ どのようなことばを使っているか班で話し合う。→発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 人がらを読みとる際、ポイントとなることを板書し、確認させる。 • 机間巡視をして話し合いを活発にさせる。 ◎ 積極的に作業が、進められ、話し合いがなされているか。 ⑩
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">山伏と百姓は、それぞれどういう人物か。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 人がらのあらわれていることばからどういう人物かを考える。 • 自分の考え→話し合い→発表 ○ 確認するために、どういう人物であるかを隣の人に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の考えをもってから、話し合わせる。 ◎ 自分の考えをはっきりもったか。 ◎ 活発に話し合いがされているか。 • 発表をもとに2人の人柄をまとめさせる。 ◎ 深い読みとりができていますか。 ⑫
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">読みとったことを生かして、朗読しなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 山伏と百姓の役を班で決めて朗読する。 ○ 班ごとに発表する。 ○ 次時の予告をきく。 	<ul style="list-style-type: none"> • 読みとったことをもとに、狂言のおもしろさを表わせるよう朗読させる。 ◎ 人柄を読みとって、朗読しているか。 ⑬

第2学年2組国語科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 岡村英勝

1. 題材 堀池の僧正

2. 学習計画 (4時間完了)

第1時 堀池の僧正

第2時 高名の木のぼり(本時)

第3時 聖海上人の感涙

第4時 八つになりし年

3. 本時の目標

- (1) 話の展開をはっきりとらえ、主題を考えさせる。
- (2) 確実に評価活動をさせ、意欲的に学習に取り組ませる。

4. 準備 朗読評価表・学習のポイント表

授業の視点

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 指導の調整と学習の調整としての評価活動がみられるか。(2) 個人思考と集団思考のけじめがはっきりしているか。(3) 古典学習に意欲をもって学習しているか。 |
|---|

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 朗読の学習をする。(足ずり) ○ 本時の目標をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 評価表の観点にもとづいて評価する。 ⑤・ 本時の目標を具体的につかませる。 ◎ 学習のポイント表で確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「高名の木のほり」を音読練習しなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 班ごとに音読練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 歴史的かなづかいに注意して読ませる。 ⑤・ 歴史的かなづかい・句読点に注意して読めたか。(相互評価)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「注」をもとにしてあら筋をつかみなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「注」を参考にして大意をつかむ。 ○ 班で確認する。 ○ 話の展開を詳しくつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 二つの部分 ・ 主語と述語について 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 場面・人物・事件を大まかにとらえさせる。 ◎ となりの人に説明できたか。(相互評価) ②⑩ ◎ とくに①主語・述語の関係②助詞の省略③単語の意識をポイントとして考えさせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">主 題 を 考 え な さ い 。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 主題の部分を見つける。 ○ 班でその理由を説明する。 ○ 自由に意見を発表する。 ○ 本時のまとめをする。 ○ 予習課題の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 傍線をつけ、その理由を考えさせる。 ◎ 的確な意見がでているか。(机間巡視) ◎ 「あやまちは～」「あやしき下～」を指摘すると思われるから主題を深く考えさせたい。 ⑮ ◎ 兼好のものの方・考え方にふれさせる。 ◎ 身分の意識や体験について ◎ ポイントがつかめたか。(自己評価) ◎ 班活動の評価

第2学年4組国語科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 神戸 豊子

1. 題材 堀池の増正

2. 学習計画 (4時間完了)

第1時 堀池の増正

第2時 高名の木のぼり (本時)

第3時 聖海上人の感涙

第4時 八つになりし年

3. 本時の目標 (1) 会話の展開をはっきりととらえ、主題をつかませる。
(2) 班の活動に積極的に参加させる。

4. 準備 朗読評価表、学習のポイント表

授業の視点

- | |
|---|
| (1) 指導の調整と学習の調整としての評価がなされているか。
(2) 個人思考と集団思考のけじめがはっきりしているか。
(3) 古典学習に意欲を持って学習しているか。 |
|---|

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各班1名朗読(「足ずり」)し、評価しあう。(相互評価・自己評価) ○ 本時の目標を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朗読箇所は事前に計画表で指示してある。 ◎ 観点にそった評価がなされているか。 <li style="text-align: right;">(机間巡視) ◎ 前回よりも向上したか。(挙手) ・ 朗読中に本時の目標を板書しておく。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「高名の木のぼり」の音読をしなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 対人法で読みあう。 ○ 指名により朗読。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的かなづかいに注意させる。 ◎ かなづかいに注意して読んでいるか。 <li style="text-align: right;">(机間巡視)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「注」をもとにして、あらすじをまとめなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 観点にしたがって隣りの人に説明する。 ○ 会話の展開を詳しくとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物・場面・事件の観点で説明する。 ◎ 隣りの人の説明をきいて、あらすじがわかったか。(挙手) ・ 主語・助詞・単語に注意して、展開をはっきりとつかませる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">作者はこの話を通してどういうことを言いたいのか。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 主題のかかれている部分に傍線を引き、どういうことを言いたいのか考える。(個人思考→集団思考→発表) ○ ポイント表により評価する。(自己評価) ○ 次時の学習を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「あやまちは、……」「あやしき下臈…」の二ヶ所に注目させる。 ◎ 主題を的確につかんでいるか。 <li style="text-align: right;">(机間巡視・発表) ・ 「油断大敵」という言葉に気付かせる。 ・ この主題を通して、兼好のものの方・考え方にもふれさせる。 ・ ノートの下段に、主語・助詞に注意して口語訳してくるよう指示する。

第3学年5組国語科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 宮崎和恵

1. 題 材 唐詩鑑賞
2. 学習計画 (4時間完了)
 - 第1時 読みの習熟をはかり、原詩を聞き、リズム、簡潔さなど鑑賞させる。
 - 第2時 杜甫の「絶句」を鑑賞させる。(本時)
 - 第3時 李白・王維の詩を鑑賞させる。
 - 第4時 他の唐詩を紹介し、暗誦させる。
3. 本時の目標
 - (1) 唐詩の鑑賞のしかたを学び、「絶句」の心情・情景を味わわせる。
 - (2) 話し合いに積極的に参加させる。
4. 準 備 朗読評価表・学習のポイント表

授業の視点

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 班活動に積極的に参加しているか。(2) 個人思考と集団思考のけじめがはっきりしているか。(3) 古典学習に意欲を持って取り組んでいるか。 |
|--|

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「唐詩」三編を朗読する。 ○ 本時の目標を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標と「絶句」の白文を板書。 ⑤ ・ 評価表によって相互評価する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">唐詩では、何をどのように味わえばよいか。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで話し合い、発表する。 ○ 「絶句」対人で音読しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 起承転結や対句などを参考にし通釈によって情景や心情を味わわせる。 ⑧ ・ 一度だけ読ませる。暗誦できる者は暗誦。 ・ 「返り点」などつかえず読めたか。(挙手)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「絶句」を通釈し、情景や心情を味わおう。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 意味のとれない漢字を各自手を挙げて言う。 ○ 対人で通釈しあう。 ○ 指名により、発表をする。 ○ 解説文を黙読し、次のことを考える。 <ol style="list-style-type: none"> 1. どんな情景か。 2. どんな気持ちをうたいだしたか。 考えたことをもとにして、グループで話し合い、発表する。 ○ 都(長安)から遠く離れた杜甫の流浪生活における堪えがたいさびしさをとらえる。 ○ イメージ化した情景を気持ちを、自由に作文にしたり絵にしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南中国の春であることを注意させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 通釈上のつまずきを見る。(机間巡視) ・ 解説文を参考にしながら、情景と心情を味わわせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表内容をつかむ。(机間巡視) ⑨ ・ 発表後、次のことを補説する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 碧と白) 対比(あざやかな印象) } 情景 2. 青と紅 3. 推移の感覚 } 心情 4. おのれのかなしみ「帰年」に注目 ・ 杜甫の時代・生涯についても簡単な補説。 ・ 情景心情を自由にイメージ化させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">ポイント表に、整理しよう。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ ポイント表に本時の学習事項をまとめる。 ○ 次時の学習内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 困っている者に援助する。 ・ 表の完成度を見る。(机間巡視) ⑦ ・ 時間が不足する場合は家庭学習へ。

第1学年6組社会科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 細江幸右

1. 単元 古代日本のなりたちとアジア
2. 学習計画 (8時間完了)
 - 第1次 日本のあけぼの…………… 1時間
 - 第2次 縄文文化と弥生文化…………… 3時間(本時 3/3)
 - 第3次 大和朝廷と古墳文化…………… 4時間
3. 本時の目標
 - (1) 稲作の発達による生活の変化が階級の発生と「村」「国」の成立の基礎となった事を理解させる。
 - (2) 漢書、後漢書により当時の日本の状況を理解させる。
 - (3) 自分の意見や疑問をもって積極的に話し合いに参加できる態度を養う。
4. 準備 教師：OHP 生徒：歴史資料集

授業の視点

- 社会科バズノートによる評価の中で確認課題にとりくむことにより、本時の学習内容を理解するとともに新しい考えや疑問をだしているかどうか。
- 課題解決の過程で即時評価がどのように生かされているか。
- 本時の目標を達成しうる課題であったか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ② • 本時の中心課題を板書し学習のめあてをつかませる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">稲作の広まりは人々の生活にどのような変化をもたらしたか考えなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料の図を見て変化のようすを考える。 <ul style="list-style-type: none"> • 個人の思考をもとに全体で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 図「稲作のようす」より、定住生活、貧富の差、支配者の出現などを気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 生活の変化について大まかな理解ができたか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「村」や「国」はどのようにして成立してきたか考えなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 村を支配するかしらはどのようにして現われたか、また、村人にはかしらが必要だったのだろうかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> • 班で話し合い全体で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> • かしらは米作りのさしず、用水や鉄器の管理、戦争のさしずなどにどうしても必要であり、村人はかしらのさしずに奴隷のように従ったことを理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 必要があればフィードバック情報をあたえる。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 村や国はどのようにして成立してきたかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> • 班で話し合い全体で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ③
<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料をもとに紀元前後の日本のようすを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> • 全体で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「漢書」「後漢書」より小国分立のようすを理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 階級の発生と村、国の成立が理解できたか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「村」や「国」の成立は社会をどのように変えたか考えなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 身分の差のない縄文社会がよいか、それとも奴隷であってもこの時代の社会がよいか考える。 <ul style="list-style-type: none"> • 個人で考えてから班で話し合い、社会科バズノートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自然に対して奴隷であった縄文社会に比べ、生産力は大きく前進し、人口も増えたことに気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 社会の変化を歴史の発展の一過程として理解できたか。

第2学年1組社会科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 丹羽 一 男

1. 単 元 幕府政治の進展

2. 学 習 計 画 (6時間完了)

第1時 幕政のうつりかわり……………1時間

第2時 産業経済の発達……………2時間

第3時 元禄文化……………1時間

第4時 享保の改革……………2時間(本時1/2)

3. 本時の目標 (1) 享保の改革の目的と内容を把握し、その意義について理解させる。
(2) 自分の考えや疑問をもって、積極的に話し合いに参加できる態度を養う。

4. 準 備 生徒：歴史資料集

授業の視点

- 本時の目標を達成しうる課題であったか。
- 課題解決の過程で、即時評価がどのように生かされているか。
- 確認課題と取り組むことにより、本時の学習内容を理解するとともに、発展的課題に気づいたか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<p>○ 本時の学習目標を確認する。</p>	<p>● 本時の学習課題を板書し、学習のめあて ③ をはっきりとつかませる。</p>
<p>享保の改革がおこなわれた背景は何か考えなさい。</p>	
<p>○ ④ P 55 「武士の困窮と農民の状態」から享保の改革がおこなわれた背景を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人→班→全体へと話し合いを深める。 	<p>○ 相互活動を通して、苦しくなった幕府の財政にともない、追いこまれた武士や農民の生活をつかませる。</p> <p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 個人の考えがもてたか(挙手) ◎ 相互活動で理解ができたか(挙手) <p>○ 家康の政治を理想として幕府政治をたてなおそうとしたことを知らせる。</p>
<p>享保の改革はどのような内容で、その目的は何か考えなさい。</p>	
<p>○ 教科書をもとに、幕府政治をたてなおすために、どんな内容の改革がおこなわれたか、それは、どういう目的でおこなわれたか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人→班→全体へと話し合いを深める(予想される発言) ・ 武芸奨励, 質素儉約, 新田開発, 公事方御定書, 商品作物の栽培など。 ・ 封建制ひきしめ, 財政のたてなおし。 <p>○ 儉約令, 公事方御定書の資料で改革の目的の理解を深める。</p>	<p>○ 封建制をひきしめ, 財政のたてなおしの視点で考えさせ, 改革のようすを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 自分の考えをもって, 積極的に話し合いに参加しているか(机間巡視) ◎ 疑問点, わからない点はないか(机間巡視・挙手) <p>○ フィードバック情報を与え, 相互活動をさせ, 理解の促進と定着をはかっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 理解できたか(挙手)
<p>享保の改革の結果, 人々の生活はどうか変わったか考えなさい。</p>	
<p>○ 武士や農民のくらしが, かえって苦しくなったのはなぜか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の確認と気づいたことを社会科バズノートにまとめていく。 	<p>○ 幕政たてなおしに一応成功したが, 政治がふたたび乱れていく背景を気づかせる。</p> <p>⑫</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 本時の学習内容を確認するなかでどんな発展的課題に気づいたか。

第2学年9組社会科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 加藤憲夫

1. 単元 幕府政治の進展

2. 学習計画(6時間完了)

第1次 幕政のうつりかわり……………1時間

第2次 産業経済の発達……………2時間

第3次 元禄文化……………1時間

第4次 享保の改革と田沼の政治……………2時間(本時1/2)

- ### 3. 本時の目標
- (1) 享保の改革の背景・目的・内容を理解させ、その意義を考えさせる。
 - (2) 話し合いには、積極的に自分の考えを述べようとする態度を養う。
 - (3) 自分の意見や疑問をもって積極的に話し合いに参加できる態度を養う。

4. 準備 生徒：歴史資料集

授業の視点

- 社会科バズノートによる評価活動の中で、本時の学習内容を理解するとともに、発展的課題に気づいたか。
- 課題解決の過程で、即時評価がどのように生かされているか。
- 本時の目標を達成しうる課題であったか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<p>○ 本時の学習目標を確認する。</p> <p style="text-align: center;">③</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">享保の改革がなぜ行なわれたのか。その背景を考えてみなさい。</p> <p>○ 教科書 P 146 をみて、封建制度の基礎を確認する。</p> <p>○ 資料「武士の困窮」および元禄文化、産業経済の発達、どのような関連をもって⑩いるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各班で話し合い、発表する。 	<p>○ 本時の学習の概略をつかませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産業経済の発達と武士の困窮が関連していることを理解させ、封建制度がゆらぎつつあることを理解できたか。
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">享保の改革はどのような内容で、何を目的として行なわれたか考えなさい。</p> <p>○ 教科書 P 169 の記述、資料と「儉約令の資料から、享保の改革ではどのようなことが行なわれたかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べた結果を確認する意味で、全体に発表する。 <p style="text-align: center;">②②</p> <p>○ 調べたことをもとにして、享保の改革の目的について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バズノートに発言を記録する。 ・ 全体で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 封建制度のたてなおし、幕府財政のたてなおしがこの改革の目的であったことを理解させる。 ・ 資料の内容が正しく把握されたか。 <p>○ フィードバックによって、理解を深め定着をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 享保の改革の目的と内容が理解できたか。
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">享保の改革の結果、人々の生活はどうかわったか考えなさい。</p> <p>○ 享保の改革の結果、武士や農民、町民の生活はどうかわったか、各班で話し合う。</p> <p style="text-align: center;">⑩</p> <p>○ 人々はどのような政治を望むようになるか。各班で考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バズノートに記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 享保の改革の意義が理解できたか。 <p>○ 本時の学習内容を確認するなかで、発展的課題にきずいたか。</p>

第3学年3組社会科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 奥 田 政 吉

1. 単 元 インフレーションとデフレーション
2. 学 習 計 画 (8 時間完了)
 - 第1次 価格と物価 4時間(本時3/4)
 - 第2次 貨幣と金融 4時間
3. 本時の目標 (1) インフレーションとインフレーションが国民生活に与える影響について理解させる。
(2) デフレーションをインフレーションと比較して理解させる。
(3) バズノートを利用して、自分の意見や疑問をもって積極的に話し合いに参加できる態度を養う。
4. 準 備 生徒資料「3億円事件からみたカネの価値の激減ぶり」のプリント

授業の視点

- 確認課題に取り組むことにより、本時の学習内容を理解するとともに、発展的課題に気づいたか。
- 課題解決の過程で、即時評価がどのように生かされているか。
- 本時の目標を達成しうる課題であったか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 評 価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の目標を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ③ ○ インフレーションと国民生活について学ぶことを板書して、目標をつかませる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">資料「3億円事件からみたカネの価値の激減ぶり」から、どんなことを思いますか。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を読んで感想を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 班 → 全体へと感想を自由にだす。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ ○ 自由に感想をださせて、貨幣価値が下がっている事実注目させる。 ○ 物価が上がっても、所得も同じように上がれば問題がないことを指導する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">インフレーションとは何か、その原因について考えなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ ドイツの真正インフレの例から、インフレの意味をつかむ。 ○ 貨幣の流通量がふえるのは何故か考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大量にお金が必要となるのはどのような場合か。 ・ 物価が上がると賃金を上げる。これをくり返すとどうなるか。 ○ インフレで得をするのは誰で、損をするのは誰か考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人→班→全体へと考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ② ○ インフレとは通貨量の増大が原因となっておこる貨幣価値の下落であり、単なる物価騰貴ではないことを理解させる。 ○ 小課題をあたえて中心課題を考えてゆくてだてにさせる。 ○ 管理価格について気づかせる。 ◎ インフレによって私たちの生活が困難になってゆくことがわかったか。 ◎ 場合によってはフィードバックする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">インフレーションが国民生活にあたえる影響について考えなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ インフレがさらにすすむと私たちの生活はどうなってゆくのだろう。では物価が下がれば生活が楽になるのだろうか考える。⑩ ・ 教科書をもとに個人で考えた後、バズノートに話し合ったことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ デフレの現象からインフレの原因、影響をしっかりと理解させる。 ◎ 本時の学習内容を自分たちの生活と関連づけて発展的にとらえることができるかを評価する。

第1学年2組数学科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 長谷川 俊彦

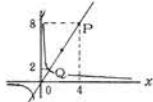
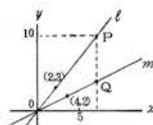
1. 題 材 関数のグラフ
2. 学習計画 (8時間完了)
第1次 座 標 …………… 2時間
第2次 いろいろな関数のグラフ …… 3時間
第3次 問題A・B …………… 3時間(本時2/3)
3. 本時の目標 (1) 与えられた条件から、グラフを利用して正比例、反比例の関数関係を式に表わせるようにする。
(2) まず自分で考え、意欲的に学習にとりくむ態度を養う。
4. 準 備 グラフ黒板、プリテスト、ポストテストの用紙

授業の視点

中心課程における生徒達の相互活動の状態。
準備過程のバズと中心過程のバズについて。
プリテストという形での生徒への意欲づけについて。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<p>○ プリテスト</p> <div data-bbox="363 336 1193 481" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>右の図は、正比例のグラフと反比例のグラフである。 $P(4,8)$で、交点Qのy座標が2であるとき、反比例の関係を表わす式を求めよ。</p>  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● プリテストで意欲づけをする。
<ul style="list-style-type: none"> ● 各自問題を考える。 <p>○ 本時の目標指示</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 机間巡視 (観察) ● 式ができたと思う人を確認 (挙手) ● 認知目標, 態度目標について
<div data-bbox="363 638 1193 739" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>正比例 $y = ax$ のグラフを書いたら、点 $(10, -6)$ を通る直線になった。この正比例の関係を表わす式を求めよ。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 各自ノートで解く。 ● 隣どうして考え方を確認しあう。 	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 机間巡視 (観察) ● $y = -\frac{3}{5}x$ を得た人を確認 (挙手) ● 比例定数 a の決め方をおさえる。
<div data-bbox="363 896 1193 1064" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>直線 l, m は正比例のグラフで、l は点 $(2, 3)$ と P を通り、m は点 $(4, 2)$ と Q を通っている。直線 PQ は x 軸に垂直である。このとき、P の y 座標が 10 であるとき、Q の座標はいくらか。</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各自問題を読み意味をつかむ。 ○ 班で話し合う。 ○ 結論のでたものが考え方を発表する。 ○ 理解した人を中心として、再度話しあう。 	<p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 机間巡視 (観察) ● $y = -\frac{3}{5}x$ を得た人を確認 (挙手) ● 比例定数 a の決め方をおさえる。 ● 机間巡視 (思考把握) ● 発表をまとめる。 ● 再度考えさせる。 ● 失敗を恐れず発言し、疑問点を質問できたか。(相互活動)
<div data-bbox="363 1377 1193 1444" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>プリテスト課題に同じ。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 各自問題に取り組む。 <p>○ 班での話しあいによって疑問を解決する。</p> <p>○ 本時のまとめ。</p> <p>○ 本時の反省, 次時の予告</p>	<p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ヒント…反比例の式は $y = \frac{a}{x}$ である。 ● 机間巡視 (不振児指導) ● 関係式のできた人を確認する。(挙手) ● グラフ上の点は関係式を満たす点である。これを使って比例定数, 座標等を求める。 ● 認知目標, 態度目標の評価。

第2学年3組数学科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 今 泉 仁

1. 題 材 確率

2. 学習計画 (10時間完了)

第1次	確率の意味	2時間
第2次	確率の求め方	4時間 (本時3/4)
第3次	期待値	1時間
第4次	確率と相対度数	1時間
第5次	問題A・B	2時間

3. 本時の目標 (1) 独立事象と従属事象についての確率を求める。
(2) 自分の考えをもって、班での話し合いに積極的に参加する。

4. 準 備 プリ・ポストテスト用紙

授業の視点

個人でのとりくみ・話し合い・発表などの各場面で、積極的に学習に参加しているか。
各場面での話し合いの方法はどうか。

MEMO

5. 学習活動

学 習 活 動	指導上の留意点・評価												
<p>○ プリテスト</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1等2本, 2等5本はっている20本のくじから, つづけて2回ひくとき, 1回目に1等, 2回目に2等のあたる確率を求めよ。(1)1回目にひいたくじをもとにもどす場合。(2)1回目にひいたくじをもとにもどさない場合。</p> </div> <p>○ 教科書等を参考にし、各自とりくむ。</p> <p>○ 本時の目標指示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1から6までのカードがそれぞれ1枚ずつある。ここから, つづけて2枚のカードをとり出す方法は何通りあるか。(1)1枚目のカードをもどす場合。(2)1枚目のカードをもどさない場合。</p> </div>	<p>○ 学習に対する意欲づけをする。</p> <p>○ この問題を通して本時の目標をつかませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 机間巡視 (観察) ◎ できたと思う人を確認 (挙手) <p>○ 認知目標, 態度について</p>												
<p>○ 各自ノートにやる。</p> <p>○ 班で話し合う。 $6 \times 6 = 36$</p> <p>○ まとめる。 $6 \times 5 = 30$</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>5個の白玉と3個の赤玉のはっている袋の中から, 玉を1つずつ, つづけて2回とり出すとき, 1回目に白, 2回目に赤のする確率を求めよ。(1)1回目にとり出した玉を袋に返す場合。(2)1回目にとり出した玉を袋に返さない場合。</p> </div> <p>○ 各自考えノートにやる。</p> <p>○ 自分の考えをもって班で話し合う。</p> <p>○ 考え方を発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <table style="font-size: small; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">白</td><td style="padding: 2px;">8×8</td><td style="padding: 2px;">8×7</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">白</td><td style="padding: 2px;">5×8</td><td style="padding: 2px;">5×8</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">白</td><td style="padding: 2px;">5×8</td><td style="padding: 2px;">5×8</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">白</td><td style="padding: 2px;">8×8</td><td style="padding: 2px;">8×7</td> </tr> </table> </div> <p>○ 発表や説明で理解した事を, 2人ペアで確認する。</p>	白	8×8	8×7	白	5×8	5×8	白	5×8	5×8	白	8×8	8×7	<p>○ まず考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ できた人を確認 (挙手) <p>○ わからない者がいないよう徹底する。</p> <p>○ 樹形図を活用。</p> <p>○ まちがってもよいから自分の考えをもつことの大切さを強調する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 机間巡視 (状況把握) ◎ 班での話し合いに参加 (思考把握) <p>○ 表を用いてまとめる。</p> <p>○ 疑問点があれば討議させながら解決させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 説明することができたか。
白	8×8	8×7											
白	5×8	5×8											
白	5×8	5×8											
白	8×8	8×7											
<p>プリテスト課題に同じ。</p> <p>○ 各自解く。</p> <p>○ 話し合いにより疑問解決する。</p> <p>○ 本時の反省・次時予告</p>	<p>○ 机間巡視で不振児の指導をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 確率$\frac{1}{40}$と$\frac{1}{30}$を得た人を確認 (挙手) <p>○ 解答の求め方を示しながら確率の求め方をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 認知・態度目標の評価 												

第3学年2組数学科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 中 条 聡 子


1. 題 材 線や面のつながり
2. 学習計画 (5時間完了)
第1次 線のつながり …… 2時間 (本時 1/2)
第2次 面のつながり …… 2時間
第3次 問題 …… 1時間
3. 本時の目標 (1) 線のつながりぐあいについて類別し、図形の見方が他にもあることを学ばせる。
(2) 自分の考えを積極的に述べられるような態度を養う。
4. 準 備 プリ・ポストテスト用紙

授業の視点

新しい題材に対して生徒が興味を持って取り組もうとしたか。
個人思考、バズ、全体討議の各場面で、積極的に学習に参加しようとしたか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指導上の留意点・評価
<p>○ プリテスト</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>次の文字をつながりぐあいで分類せよ。</p> <p>イ ウ エ カ キ ク ケ コ サ ス ナ ヌ ネ ノ モ</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> プリテストにより意欲づけをする。
<p>○ 各自問題にとりくむ。</p> <p>○ 本時の目標指示。</p>	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題をやることにより、本時の目標をつかむようにする。 ● 分類できた人の数を確認する。(挙手)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>次の図形のつながりぐあいで分類せよ。</p>  </div>	
<p>○ 自分なりに分類してみる。</p> <p>○ 分類方法を各班で話し合う。</p> <p>○ 班ごとの発表, まとめる。</p>	<p>⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> まず考えさせることを強調する。 ● 机間巡視 (思考把握) ● 切ったり, つないだりしない事を強調。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>次の文字を線のつながりぐあいで分類せよ。</p> <p>A B C D E F G H I J K L M</p> <p>N O P Q R S T U V W X Y Z</p> </div>	
<p>○ 各自ノートに分類する。</p> <p>○ 班で話し合う。(分類)</p> <p>○ 発表 (違った分類を明確にする)</p> <p>○ 各班での分類をもとにして再度話し合う。</p> <p>○ 分類方法について, 発表する。</p>	<p>⑳</p> <ul style="list-style-type: none"> 間違ってもよいから自分の考えを持つように強調する。 ● 机間巡視で各班の特徴をつかむ。 ● 結論は出さないうで相違点を明確にする。 ● 机間巡視 (思考把握) ● 分類の観点をおさえる。 ① 閉曲線 (O, D....) ② 両端の有無 (I, J....) ③ 枝分れがある (T, Y....) etc
<p>○ 身の周りにある例を上げて, 班で他の例を考えさせる。(路線図, 案内図など)</p> <p>○ まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 合同変換 → 相似変換 → 位相変換 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>次の文字をつながりぐあいで分類せよ。</p> <p>巨 山 兄 出 千 尺 弓 九 占 与</p> <p>マ ア ト モ カ ク ヤ レ タ ネ</p> </div>	
<p>○ 各自やってみる。</p> <p>○ 話し合いにより, 疑問解決する。</p> <p>○ 本時の反省, 次時の予告</p>	<p>㉑</p> <ul style="list-style-type: none"> 分類できた人の確認 (挙手) ● 机間巡視 (遅進児の指導) ● 認知目標, 態度目標の評価

第3学年4組数学科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 加藤孝史

1. 題材 線や面のつながり
2. 学習計画 (5時間完了)
第1次 線のつながり …… 2時間 (本時1/2)
第2次 面のつながり …… 2時間
第3次 問題 …… 1時間
3. 本時の目標 (1) 線のつながりぐあいについて類別し、図形の見方が他にもあることを学ばせる。
(2) 自分の考えを積極的に述べられるような態度を養う。
4. 準備 プリ・ポストテスト用紙

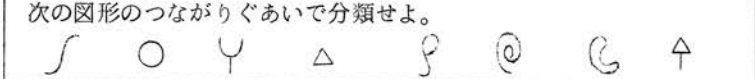
授業の視点

新しい題材に対して生徒が興味を持って取り組もうとしたか。
個人思考、バズ、全体討議の各場面で、積極的に学習に参加しようとしたか。

分類の仕方について
メモ

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
○ プリテスト <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 次の文字をつながりぐあいで分類せよ。 イ ウ エ カ キ ク ケ コ サ ス ナ ヌ ネ ノ モ </div>	・ プリテストにより意欲づけをする。
○ 各自問題にとりくむ。 ○ 本時の目標指示	・ 問題をやることにより、本時の目標をつかむようにする。 ⑤ ・ 分類できた人の数を確認する。(挙手)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 次の図形のつながりぐあいで分類せよ。  </div>	
○ 自分なりに分類してみる。 ○ 分類方法を各班で話し合う。 ○ 班ごとの発表, まとめる。	・ まず考えさせることを強調する。 ⑦ ・ 机間巡視 (思考把握) ・ 切ったり, つないだりしない事を強調
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 次の文字を線のつながりぐあいで分類せよ。 A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z </div>	
○ 各自ノートに分類する。 ○ 班で話し合う。(分類) ○ 発表。(違った分類を明確にする) ○ 各班での分類をもとにして再度話し合う。 ○ 分類方法について, 発表する。	・ 間違ってもよいから自分の考えを持つように強調する。 ・ 机間巡視で各班の特徴をつかむ。 ・ 結論は出さないで相違点を明確にする。 ・ 机間巡視 (思考把握) ・ 分類の観点をおさえる。 ⑧ ① 閉曲線 (O, D……) ② 両端の有無 (I, J……) ③ 枝分れがある (T, Y……)etc
○ 身の周りにある例を上げて, 班での他の例を考えさせる。(路線図, 案内図など) ○ まとめる。 ・ 合同変換 → 相似変換 → 位相変換	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 次の文字をつながりぐあいで分類せよ。 巨 山 兄 出 千 尺 弓 九 占 与 マ ア ト モ カ ク ヤ レ タ ネ </div>	
○ 各自やってみる。 ○ 話し合いにより, 疑問解決する。 ○ 本時の反省, 次時の予告	・ 分類できた人の確認 (挙手) ⑩ ・ 机間巡視 (遅進児の指導) ・ 認知目標, 態度目標の評価

第1学年4組理科学習指導案

昭和50年11月28日(金)第2時限於第2理科室

指導者 阿部吉一

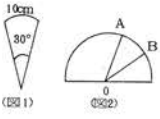
1. 単元 地球, 月, 太陽の形と大きさ
2. 学習計画 (7時間完了)
 - 第1次 地球, 月, 太陽の形…………… 2時間
 - 第2次 地球の大きさ…………… 2時間 (本時 1/2)
 - 第3次 地球上の位置のあらわしかた…………… 1時間
 - 第4次 太陽や月の大きさ…………… 2時間
3. 本時の目標
 - (1) エラトステネスの方法で地球儀(半球)の大きさが測定できる。
 - (2) 自分の考えや分担を明らかにし, 協力して学習する態度を養う。
4. 準備 地球儀(半球), 分度器, ものさし, OHP, TP

授業の視点

<p><プリテストについて> プリテストの実施は, 先行経験の把握, 問題意識化, 授業のヤマ場の設定等に有効であったか。</p> <p><測定法のくふう> ポールから絹糸をたらし, 中心角を測定する方法が, 本時の目標達成のために効果的であったか。</p>

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<p>○ プリテストをおこなう。</p> <div data-bbox="352 349 1209 568" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1. 地球は、どんな形をしていますか。</p> <p>2. 地球の大きさをはかるには、どんな方法がありますか。</p> <p>3. 図1の、円周を求めることができますか。</p> <p>4. \widehat{AB}の中心角は、どれか。いえますか。</p> <p>5. 中心がわからないとき、中心角を求めることができますか。</p> </div>  <p>○ プリテストの結果について話し合う。</p> <p>○ 地球の大きさを測定する方法について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> まず考える → 話し合う → 発表する。 	<p>⑤ ○ 評価カードに回答をかかせる。</p> <p>○ 挙手によって、結果を集計する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 問題の把握ができたか。(挙手) <p>○ 自分の考えをもってから、話し合うようにさせる。</p> <p>⑩ ○ それぞれの方法について検討させ、弧の長さや中心角から円周を求める方法(エラトステネスの方法)が、最もよいことに気づかせる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> エラトステネスの方法で地球儀(透明半球)の大きさを測定しなさい。 </div>	
<p>○ 測定方法について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準の2点をどこにとるか。 その中心角は、どうして測定するか。 <p>○ 大きさを測定する。</p> <p>○ 結果を比較する。</p>	<p>○ いくら話し合っても、中心角を測定する方法が見つからない場合は、話し合いをやめさせ、教師が説明する。</p> <p>⑫ ○ 班ごとに、測定させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基準点や角度の測定は、正しくできているか。(机間巡視)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 地球の大きさは、どのようにしてはかりますか。 </div>	
<p>○ ポストテストにより、学習のまとめをする。</p> <p>○ 次時の予告をきく。</p>	<p>○ 時間があれば、話したり、書かせたりする機会を与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習のまとめができたか。(カード)

第1学年7組理科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 小林 崇 男

1. 単 元 圧力とその伝わりかた

2. 学 習 計 画 (6時間完了)

第1次 圧力とはなにか…………… 1時間

第2次 液体の中で圧力はどう伝わるか………… 2時間

第3次 気体の圧力…………… 3時間 (本時 2/3)

3. 本時の目標 (1) トリチェリーの実験結果をもとにして大気圧の大きさを知ることができる。
(2) 班の話し合いや活動に、積極的に参加する態度を養う。

4. 準 備 トリチェリーの実験装置, OHP, TP

授業の視点

- ・プリテストの実施は、生徒の問題意識を高めることができたか。
- ・大気圧の大きさについてのバズが生徒の思考を深めるのに役立ったか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習内容を明確にする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大気の圧力をしらべること。 ○ プリテストをおこなう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 挙手により集計をする。 ○ 空気にも重さがあるわけを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ チャイムと同時に学習活動ができたか。 ⑩ 問題を提示し、解答用紙に記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 問題の把握ができたか。 ・ 空気1ℓは1.2g重であることを知らせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">教室の空気の重さはどのくらいか計算でもとめなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 教室の空気の重さを計算でもとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教室の体積をもとめる。 ・ 体積と密度から空気の重さをとめる。 ○ 大気と大気圧の定義を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地球をとりまいている空気を大気とい い大気の重さによる圧力で大気圧という。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教室のたて、横、高さは理科係で事前に測定させ、発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体積と密度から教室の空気の重さが求められたか。 ○ プリテストの集計結果と比較させ、予想よりもはるかに多いことに気づかせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">教室の大気圧をしらべなさい</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ トリチェリーの実験を観察し、管内の水銀の動きについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水銀が何cmのところとまったか。 ・ ガラス管をかたむけるとどうなったか。 ・ 上部の水銀のない部分はどんな状態か。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観察のポイントを明確にさせ、水銀の動きを注意深く見させる。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 水銀の動きが正しく観察できたか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">管内の水銀が76cmの高さでとまるのはなぜか。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 実験結果をもとに各班で話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大気圧の大きさ=76cmの水銀柱 ○ 次時の予告をさく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えをもってから、話し合うようにさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 学習のまとめができたか。

第2学年5組理科学習指導案

昭和50年11月28日(金)第2時限於第1理科室

指導者 川村辰子

1. 単元 原子と分子

2. 学習計画(5時間完了)

第1次	粒子のモデル	1時間
第2次	成分元素が同じ化合物	1時間
第3次	分子のつくり	1時間
第4次	分子の大きさ	1時間(本時)
第5次	化学式と化学反応式	1時間

3. 本時の目標
- (1) 直接はかることができないオレイン酸分子の大きさを、実験結果にもとづいて計算をし、求めることができる。
 - (2) 学習に意欲的に参加し、実験のデータをもとに、考えたり、話し合ったりする態度を養う。

4. 準備
- | | |
|----|--|
| 教師 | スポイト、バット、リコボジウム、オレイン酸、エチルアルコール
メスシリンダー、ビーカー、ガーゼ、輪ゴム、びん、OHP、TP |
| 生徒 | ものさし |

授業の視点

1. プリテストは、問題の意識化や中心課題にせまるために有効であったか
2. 分子の測定方法についてのバズは、この授業で効果的であったか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指導上の留意点・評価
<p>○ プリテストをおこなう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(1) 100 cm²のあずきを机の上にすきまなくならべて正方形に広げたところ、200 cm²になった。これからあずきの直径を求めなさい。</p> <p>(2) 同じ大きさと思われる雨粒を50滴あつめたら1 cm³になった。1滴の体積を求めなさい。</p> <p>(3) オレイン酸の分子の大きさをはかれますか。</p> </div>	<p>④ ○ 課題表に記入させる。</p>
<p>○ 結果を集計する。</p> <p>○ 各班で、解答について説明しあう。</p>	<p>○ 計算式を明記して、答えあわせをさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 直径=体積/面積であることが理解できたか。 ◎ 問題の把握ができたか。(挙手)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">オレイン酸の分子の大きさをもとめなさい。</div>	
<p>○ 実験の方法について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 観察ノートを見て方法を話し合い、準備をする。 <p>○ 実験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オレイン酸1滴の体積を求める。 • オレイン酸の膜の面積を求める。 <p>○ 結果を記録する。</p>	<p>○ オレイン酸について説明を聞かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ プリテストの内容を生かしているか。 ◎ 実験方法が理解できたか。 ◎ 協力しあっているか。 <p>③⑩ ○ この実験では次のことに注意させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • リコポジウムのまき方 • オレイン酸のおとし方
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">オレイン酸の分子の大きさはどれだけか。</div>	
<p>○ 結果について話し合う。</p> <p>○ 実験のあとかたづけをする。</p> <p>○ 次時の予告を聞く。</p>	<p>◎ 意見を積極的に出しあい、協力して検討をすることができたか。</p> <p>◎ 責任をもってあとかたづけができたか。</p>

第3学年1組理科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 沢村保雄

1. 単元磁界

2. 学習計画(11時間完了)

第1次 磁石による磁界……………5時間

第2次 電流による磁界……………2時間

第3次 磁界中を流れる電流…4時間(本時2/4)

3. 本時の目標
- (1) 磁石の置き方や電流の向きをいろいろ変えて実験し、導線が力を受ける場合力の方向が電流・磁界のいずれに対しても直角になっていることを発見する。
 - (2) 考えをもって、積極的に話し合い、実験に参加する。

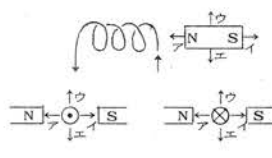
4. 準備 エナメル線, 磁石, シャーレ, 乾電池, アルミニウムはく, 食塩水, スタンド

授業の視点

- プリテストの実施は、問題の意識化や授業の山場の設定に有効であったか。
- 本時の課題は、目標達成のために適切なものであったか。
- 課題に対する生徒のとりくみはどうであったか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指導上の留意点・評価
<p>○ プリテストをおこなう。</p> <p style="text-align: center;">⑤</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>1. 右の図で、磁石はどちらに動くか、記号で答えよ。</p> <p>2. 右の図のように磁界の中の導線に電流を通すと導線はどちらに動くか、記号で答えよ。</p> </div> 	
<p>○ プリテストの結果について話し合う。</p>	<p>○ 挙手によって、結果を集計し、問題の意識化をさせる。</p> <p style="text-align: center;">⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 意識化ができたか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">磁界の中で、電流が流れている導線の受ける力の向きを調べなさい。</div>	
<p>○ 実験方法について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実験の順序 ● 記録のしかた ● 分担と準備 <p>○ 計画にもとづいて、班ごとで実験する。</p> <p>○ 実験結果について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● まず考える → 話し合う → 発表する 	<p>○ 観察ノートをもとにして、下のような点に気をつけさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 磁石間の距離 ● 磁石の高さ ● 食塩水の中に入っている重りの長さ ● エナメル線の長さ <p style="text-align: center;">⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実験に参加しているか。 ● 正しく記録ができているか。 <p>○ 磁界、電流、力の向きとの関係を考えさせる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">導線の受ける力の向きについてまとめなさい。</div>	
<p>○ ポーテストをおこなう。</p> <p>○ 評価をし、課題表に記入する。</p> <p>○ 次時の予告を聞く。</p>	<p style="text-align: center;">⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 磁界の向き、電流の向き、力の向きとの関係がつかめたか。 ● どの程度理解できたか。(挙手)

第3学年9組理科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 加納弘雅

1. 単元 磁界

2. 学習計画(11時間完了)

第1次 磁石による磁界……………5時間(本時4/5)

第2次 電流による磁界……………2時間

第3次 磁界中を流れる電流……………4時間

- ## 3. 本時の目標
- (1) 方位磁針, 鉄粉を使って調べる実験を通して, 磁石のまわりの磁界のようすを説明できる。
 - (2) 話し合いや実験に積極的に参加し, 協力して学習する。


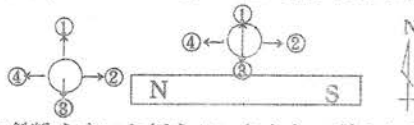
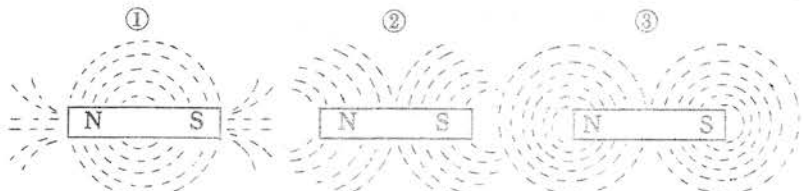
- ## 4. 準備
- 磁石, 方位磁針, 鉄粉, OHP, TP, 白紙, 磁界説明器

授業の視点

- プリテストの実施は, 問題の意識化や授業の山場の設定に有効であったか。
- 本時の課題は, 目標達成のために適切なものであったか。
- 課題に対する生徒のとりくみはどうであったか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<p>○ プリテストをおこなう。</p> <div data-bbox="427 331 1273 779" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>(1) 方位磁針のN極は、どちらですか。 ア  イ</p> <p>(2) ○印に方位磁針をおいたとき、N極の指す向きは何番ですか。</p>  <p>(3) 磁石の上に鉄粉をまいた紙をおいたとき、どのような模様ができますか。</p>  </div>	<p>⑤ ○ 評価カードに解答をかかせる。</p>
<p>○ プリテストの結果について話し合う。</p> <p>○ 磁石の上に鉄粉をおくと、どのような模様ができるかについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実験方法や係分担について話し合う。 ・ 結果を記録し、発表する。 	<p>○ プリテストの結果を集計し問題の意識化をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 問題の把握ができたか。 <p>○ 机間巡視し、鉄粉のまき方、紙が傾かな</p> <p>⑮ ○ どのように実験方法をくふうさせる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">磁石のまわりの磁界の向きを調べなさい。</div>	
<p>○ 磁界の向きの定義を知る。</p> <p>○ 磁石のまわりの磁界の向きを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実験方法について話し合う。 ・ 記録のしかたや係分担について話し合う。 ・ 計画にもとづいて実験する。 ・ 結果を考察する。 <p>○ OHPで磁界のようすを観察し、ノートに整理する。</p>	<p>○ 方位磁針のおく位置は時間の都合で分担しておこなわせる。</p> <p>⑳ ○ 班ごとに実験させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 方位磁針の記録のしかたが正しくできているか。 <p>○ 磁界説明器を使って実験結果を確認させる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">磁石のまわりには、どんな磁界ができるか。</div>	
<p>○ ポストテストで、学習のまとめをする。</p> <p>○ 次時予告を聞く。</p>	<p>○ 時間があれば学習内容を整理させる。</p> <p>⑤ ○ 今日学習で、なにがわかったか。</p>

第2学年⁶10組音楽科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限於音楽室

指導者 長谷川 たつみ

1. 題 材 花の季節
2. 学 習 計 画 (2時間完了)
第1時 東欧・北欧の音楽についての理解, 階名唱……1時間(本時)
第2時 対旋律の笛の練習, 歌詞唱……………1時間
3. 本時の目標 (1) 東欧や北欧の音楽の特徴について理解させる。
(2) 旋律短音階を理解させて階名唱をさせる。
4. 準 備 教師 アルトリコーダー, ソプラノリコーダー, メトロノーム, 進度表
生徒 アルトリコーダー, ソプラノリコーダー, プリント

授業の視点

- アルトリコーダーの練習は, 班ごとに協力して意欲的にできたか。
- 生徒の力だけで, 新曲がどの程度歌えるようになったか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<ul style="list-style-type: none"> ○ アルトリコーダーの練習をする。 各班で練習や審査をする。 ○ 3～4班がグループ発表をする。 ○ 全員で合わせて全体練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 机間巡視をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 班員が協力しあっているかに目をくばる。 ⑬ ○ 安易に合格させないように気をくばる。 ○ 生徒同志で相互評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全員の演奏がうまくあっているかに注目する。(教師の即時評価) ○ 姿勢や指づかいに注目する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">東欧・北欧の音楽の特徴をつかみなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 東欧北欧の音楽を読み、その特徴を知る。 ○ 東欧北欧の音楽について教師の説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 花の季節はジプシー民謡であることに気づかせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">階名唱をしなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 何調であるかを考える。 ○ 各班で階名唱をする。 ○ 代表の班が発表する。 D・S・と♯の意味を理解する。 ○ 階名唱で全体練習をする。 ○ 旋律短音階の上行形を理解する。 ○ 主旋律を確認するために笛で主旋律を演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ まちがっていても生徒の力で歌わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表した班が正しく歌ったかどうか生徒が評価する。 ⑳ ○ 嬰へと嬰トの音程が正しく歌えているかに注意する。 ○ 嬰へと嬰トの音の確認をする。 ○ メトロノームで速度の確認をする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">歌詞唱をしなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 指名して歌詞を読ませる。 ○ 歌詞を読みその内容を理解する。 ○ 歌詞唱をする。 ○ 次時の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 季節はいつなのかを理解させる。 ㉑ ○ 速度の変化に注意させる。

第1学年9組美術科学習指導案

昭和50年11月28日(金)第2時限於美術室

指導者 奥村 浩 康

1. 単 元 土でつくる 土笛

2. 学 習 計 画 (8 時間完了)

第1次 焼き物について・音の出るしくみ…………… 2 時間

第2次 アイデアスケッチ…………… 2 時間

第3次 土笛の制作…………… 2 時間 (本時 1 / 2)

(乾 燥)

(焼 成)

第4次 絵付け・鑑賞…………… 2 時間

3. 本時の目標
- (1) 土笛の命である音のしくみを理解させ、吹き口や歌口の関係を考えて意欲的に制作ができるようにする。
 - (2) 手づくりによる素朴さを味わわせ、身近な焼き物についての関心を深める。

4. 準 備 粘土・粘土板・粘土ペラ・手ぬぐい・ビニール・布・くし・スケッチブック

授業の視点

- アイデアスケッチに基づき積極的な態度で土笛ができ、粘土制作に関心がもてたか。
- 音の出るしくみを考えて、効果的に吹き口や歌口の位置をつかむことができるようになったか。
- 音の出る土笛を作るために互いに指摘し合って制作できたか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習をもとに学習表に造形要素を記入し、本時の目標をは握する。 <ul style="list-style-type: none"> • 意欲のある制作ができるように本時の学習計画を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作意欲がわき、計画的に学習できるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> • 土笛の命である音のしくみについての疑問をいだかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 意欲的に制作しようとしているか。
土笛の音の出るしくみについて考えよ。	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 土笛をもとに音の出るしくみについていろいろ考える。 <ul style="list-style-type: none"> • 音の出るしくみで大切な吹き口と歌口との関係についてよく考え、笛の断面図を書きまとめる。 ○ 班ごとに話し合い、音の出るしくみについて予測したことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 笛の断面図を書かせ、笛のしくみを予測させる。 <ul style="list-style-type: none"> • どのようなしくみであるとよく音が出るのか土笛を作りつつ助言する。 ○ 音のしくみをとらえた笛の制作へとつながる発表をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 音の出るしくみを理解したか。
音の出る土笛の制作をしてみよ。	
<ul style="list-style-type: none"> ○ アイデアスケッチをもとにして土笛の外形づくりをする。 <ul style="list-style-type: none"> • 粘土の厚み、空洞の大きさ、吹き口の大きさをよく考えて作る。 ○ 吹き口と歌口の穴のあけ、音が出るかどうか調べながら制作する。 <ul style="list-style-type: none"> • 吹き口と歌口の関係や穴の大きさをよく考えて作る。 • 音が出るように班内で指摘し合う。 • 音が出るように修正を加える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 素朴さのある土笛となるように外形の大きさを考えに入れ、すばやく制作させる。 <ul style="list-style-type: none"> • 音のしくみを考えに入れた外形づくりをさせる。 ○ 音の出る土笛となったかどうか吹きながら確かめさせる。 <ul style="list-style-type: none"> • 音のでないときは、音の出る土笛をよく観察させ、指摘しあいながら作らせる。 • 効果的な制作となっているか個別指導をする。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 問題点に気づき積極的に制作したか。
音の出る土笛のしくみがわかったか。	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 土笛で大切な音の出し方についてまとめる。 ○ 土笛を見て学習表に反省を記録する。 <ul style="list-style-type: none"> • 自己の次時へのめやすを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音の出るしくみがわかり、音の出る土笛を制作できるかどうか確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> • 音の出ない土笛を作った生徒へ助言し次時への意欲づけをする。

第2学年7・8組(男子)体育科学習指導案

昭和50年11月28日(金)第2時限 於 運動場

指導者 佐 善 康 郎

1. 題 材 サッカー

2. 学 習 計 画 (12時間完了)

第1次 基本技能……………5時間(本時2/5)

第2次 応用技能……………4時間

第3次 ゲーム……………3時間

3. 本時の目標

- (1) 基礎的なキックの技能を身につけさせる。
- (2) パスしたら、すぐ動くことを身につけさせる。
- (3) 健康・安全に留意させ、さらに、評価活動を実践させるなかで自己調整機能を身につけさせたい。

4. 準 備 ストップウォッチ, 技能評価表, ボール

授業の視点

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 課題の構成・提示方法・配列は適切であったか。(2) 評価のさせ方はよかったか。(3) 評価活動をとおして、生徒に変容がみられたか。 |
|---|

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">自己の体力を高めよう。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各班で準備運動、健康観察をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標をもってとりくむ。 ・ 最低でも8割タイムは割らない。 ○ ウォーミングアップをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ボールリフティング、基本的技能のドリルを、各自目標をもってとりくむ。 ○ 本時の目標を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技能評価表を見て、自己目標を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 所定のコースを二周し、自己の体力・気力の増強に努めるなかで、本時の体調を自己診断させる。(記録表に後で記入する) ⑩ ○ 基本的技能・センスを養うためにも、ドリルの機会を多くする。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ フィードバック(前時の評価から) ○ 説明、技能評価表から何を、どのように取りくむかをとらえさせ、意欲化を図る。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">トラッピングの練習をしなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ からだの各部を使って、いろいろなボールを、コントロールする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ まず、正確に、つぎに、素速くコントロールできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ボールコントロールの重要性・困難さに気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 自己・相互評価をとおして、つまずき・欠点をとらえ、練習の必要性を知らせ、実践させる。 ◎ 生徒の反応……班巡視のなかでとらえ、助言、示唆し、意欲化を図る。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">パス アンド ゴーの練習をしなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ パスしたら、すぐ、作業する必要性を知り対列・スリークロスを使って練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ボールへの走りこみ→素速いトラップ→パスの練習 ○ パスは、受ける人の走ろうとする少し前方へ。 ○ 互いに協力、教え合って練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いいボールコントロールが、いいパスを生み出す条件である事に気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 自己・相互評価……学習活動をたしかめ、フィードバックの機会とする。 ○ 思考←→実践をくり返すなかで、技能の定着化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 巡視……協力し合っている課題に取りくんでいるかを見る。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">まとめをしなさい。(次の課題は何かをとらえよう)</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 取りくんだ技能について、自己評価し、さらに、相互評価を受け、評価表に記入する。 ○ つまずきは何か、到達段階はどこかを知り、次時の課題(ドリル)を発見する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己・相互評価活動をとおして、評価を正確に行なわせる。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ つまずき、到達段階をとらえさせる……技能評価表記入。 ○ 記入し、次時の課題をとらえさせる。

第2学年7・8組(女子)体育科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限於運動場

指導者 加藤洋子

1. 題 材 器械運動
2. 学 習 計 画 (11時間完了)
 - 第1次 鉄棒運動…………… 4時間(本時2/4)
 - 第2次 マット・とび箱運動… 5時間
 - 第3次 平均台運動…………… 2時間
3. 本時の目標
 - (1) 正しい補助法を理解させ、互いに協力して腕立て前転を習得させる。
 - (2) 自他の健康・安全に留意させ、評価活動をとおして自己調整機能を養う。
4. 準 備 ストップウォッチ, プログラム表, 技能評価表, エンピツ

授業の視点

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 課題の構成やそれへの取りくませ方が適切であったか。(2) 課題解決の中で、即時評価がどんな方法でおこなわれたか。(3) プログラム表や技能評価表が、生徒の意欲的な学習態度に反映されたか。 |
|---|

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自 己 の 体 力 を 高 め よ う。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 集合，準備運動，規定コースを走る。 ○ 本時の目標を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技能評価表を見て，自己目標を立てる。 ・ 班長は要点をメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2週の予想タイムを自覚させた上で，本時の健康状態を確認させる。 ○ 腕立て前転の練習過程をプログラム表で知らせ，意欲をもたせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 補助は，班ごとにこの種目で最も陥りやすい欠点を予想させ，正しく指示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">さ か あ が り 前 回 り の 練 習 を し な さ い。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ さかあがり 前回り <ul style="list-style-type: none"> ・ 班ごとにローテーションによる練習 ・ できない人への補助。 ・ 特に前回りでは，人のをよく見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 班巡視しながら，生徒の反応を見る。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 意欲的に発展的な練習をしているか。 ◎ 前回りの際のくふうがみられるか。 (手首のかえし，着地を後方に移す。)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">補 助 を つ け て 腕 立 て 前 転 の 練 習 を し な さ い。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 班で各自の前回りのくふう点を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回りの発展的種目であることを知る。 ○ 腕立て前転 <ul style="list-style-type: none"> ・ プログラム表にそって練習する。 ・ プログラムを実施する中で，困難点などをつかむ。 ・ できない時は，プログラムをもう一度もどって取りくむ。 ・ 補助は実施者の背とももを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合いの中から，ポイントをひき出し整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 積極的に話し合いに参加しているか。 ○ 1～2名に試技させ，回転力や手首のかえしのタイミングを理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手首のかえしは，頭が鉄棒の真下を過ぎた頃とする。 (プログラムの3段階がこの練習) ○ 班巡視しながら，生徒の反応を見る。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 課題が適切であったか。 ◎ 生徒が真剣に課題にとりくんでいる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">さ か あ が り 腕 立 て 前 転 後 ろ お り を し な さ い。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ さかあがり 腕立て前転 後ろおり <ul style="list-style-type: none"> ・ 一連の運動としておこなう。 ・ 後ろおりは，腕立て後転の基本になることを知る。 ○ 整理運動，まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・ 技能評価表に書きこみ，次時への課題を発見する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 後ろおりは既習のものなので，より高く着地に入るようにさせる。(腕のつき) ○ 不振児に対しては，フィードバックの機会とし意欲的に学習させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人指導する。 ○ 技能評価表をもとに反省させ，つまずきや到達段階を知り次時への意欲をもたせる。

第3学年7・8組技術・家庭科(男子向き)学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限於3の8

指導者 石 原 憲

1. 単 元 2 サイクル機関のしくみ
2. 学 習 計 画 (3時間完了)
第1次 しくみと働き……………1時間(本時)
第2次 インジケータ線図……………1時間
第3次 潤滑のしくみと特長……………1時間
3. 本時の目標 (1) 4 サイクル機関と比較した、2 サイクル機関の構造と、その作動原理を理解することができる。
(2) 自分の考えをすじみちをたてて整理し、積極的に発表できる態度を養う。
4. 準 備 プリテスト用紙, OHP, TP資料

授業の視点

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 相互活動から自己の考えが確かめられ修正されていったか。(2) 課題が、目標にせまるための意欲化、焦点化という機能として有効であったか。 |
|--|

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
○ プリテストを行なう。	<ul style="list-style-type: none"> 学習への興味や意欲づけをする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ① 4サイクル機関の4サイクルという言葉には、どんな意味があったか。 ② 2サイクル機関とは、どんな機関だと思うか。 </div>	
○ 各自問題にとりくむ。	<ul style="list-style-type: none"> ①②の関連から、本時の目標をつかむようにする。
○ 本時の目標把握。	<ul style="list-style-type: none"> ①②にわけて、できた者の人数を確認する。(挙手)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 2サイクル機関のしくみを、4サイクル機関と比較せよ。 </div>	
○ TPから比較し、まず自分でノートにかいてみる。	<ul style="list-style-type: none"> 共通して両方にあるもの、ないもの、あっても形のちがうものなど、比較の方法をおさえる。
○ 各自の指摘をもとに班で話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視。(相互活動)
○ 全体へ発表。	
○ 自分で気づけなかったことを再度たしかめて補ない、まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> シリンダーの穴から、ピストンが弁のかわりであることを予測させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 2サイクル機関の動きを観察し、その働きを調べよ。 </div>	
○ TPの模型から、動きの観察をする。	<ul style="list-style-type: none"> ただながめているだけでなく4サイクル機関とは異なる動きであることを発見させたい。
<ul style="list-style-type: none"> 掃気口・排気口・吸気口など三つの口がピストンの移動で開閉する。 	
○ 各自が気づいたことを班内でどんどん出し合い情報交換。	<ul style="list-style-type: none"> どんなことでも自分の気づいたことを出し合えたか。
<ul style="list-style-type: none"> 2行程で1サイクルが終了する。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視。(相互思考)
○ 混合気の通る路すじから、吸気・圧縮…の一連の働きを調べる。	
○ 疑問点を整理しながら班で話し合う。	
○ 全体へ発表。	
○ 掃気・予圧の作用について再度班で話し合いまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 結論をいそがず問題点を明確にし、再度考える機会を与える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 2サイクル機関のしくみや働きのあらましをノートにまとめる。 </div>	
○ 学習の中身をノートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視。(個人的に補足説明)
○ となりどうしてみせあいたりない部分を補なう。	<ul style="list-style-type: none"> ポイントはおさえられているか。(相互比正)
○ 本時の反省、短学活へのめやす。	<ul style="list-style-type: none"> 認知・態度目標は達成されたか。

第3学年7・8組技術・家庭科(女子向き)学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限於調理室

指導者 戸田 やす子

1. 単 元 幼児食の調理

2. 学 習 計 画 (4時間完了)

第1次 調理計画……………2時間(本時2/4)

第2次 調理実習……………2時間

3. 本時の目標 (1) 卵の調理上の性質を知り、調理の手順を適切にきめることができる。
(2) 相互活動によって調理計画表ができる。

4. 準 備 OHP, TP資料, テスト

授業の視点

- 生活経験, 既習事項が, 本時の学習の足がかりとなり学習が展開されているか。
- 相互活動により, 自己の考えを確かめたり修正されているか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習用具の確認をする。(相互活動) ⑤ ○ テストを行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 忘れものはなかったか。 ◎ 取り組みはできているか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">チキンライス, 半じゅく卵, りんごのコンポートに必要な材料は何か。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習目標を知る。 ○ 課題について, 各自で考える。 ○ 選んだ材料について班内で検討する(発表) ○ 献立の特徴を調べる。(教科書) ⑮ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 献立 チキンライス 半じゅく卵 りんごのコンポート </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ノートに記入できたか。 ◎ 相互活動により班内の色々な材料が検討されているか。(机間巡視) ・ 冷飯をいためる方法にも気づかせる。 ・ 半じゅく卵の消化, 吸収に気づかせる ・ 酸味の強いりんごを選ぶ。(紅玉)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">調理の手順を考え, 調理実習計画をたてなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 1人分の材料と分量を調べる。(教科書) ○ 各班の実習材料と分量を決める。 ○ チキンライス・半じゅく卵, りんごのコンポート, の作り方を調べる。 ○ 調理の手順を考える。(個→班) ⑳ ・ 加熱時間, 食べる適温, こんろ。 ○ 各班で調理計画をたてる。 ・ 材料, 分量, 用具, 食器, 手順, 役割。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 代替材料に気づかせる。 ・ 準備課題と関連させる。 ◎ 相互活動により適当な材料と分量が決められているか。(机間巡視) ・ 調理の手順をきめる観点に気づかせる。 ◎ 班内で自分の考えをはっきり説明ができ, 他の人と意見交換を行ないながら実習計画表はできているか。 ・ 調理法との関連に気づかせる。 ・ 取り組み, 進度, 誤り, 助言。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">材料, 分量, 用具, 手順は適切か, 計画表を検討しなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 相互活動により検討, 修正, まとめをする。 ○ 要点をノートに記入する。 ⑤ 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 調理実習計画は立てたか。提出 ◎ 今日の学習は解ったか。

第1学年3組英語科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 渡 辺 浩

1. 題 材 Lesson 16 I like dogs
2. 学 習 計 画 (4時間完了)
 - 第1次 Part (1) …………… 1時間
 - 第2次 Part (2) …………… 1時間(本時)
 - 第3次 Part (3) …………… 1時間
 - 第4次 復習テスト…………… 1時間
3. 本時の目標 (1) 主語+動詞(likes) +目的語の文型を理解し、表現できるようにさせる。
(2) 折り返し目のある学習態度を身につけさせる。
4. 準 備 テープ・レコーダー、ピクチャカード

授業の視点

- (1) この文型を理解、表現させるために、Do you like ~? と Does Ito like ~? の問答をバズ課題に選んだが、適切であるか。
- (2) 「書くこと」の評価の位置及び内容は、授業の流れの中で適切であるか。
- (3) 折り返し目のある学習ができているか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指導上の留意点・評価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の復習 (Short Test) をする。 ○ 本時の目標を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ チャイムと同時に学習活動ができたか。
<p>I like dogs. He likes dogs. の2つの文を聞いて、違いを聞きとりなさい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 新しい文型の説明を聞く。 ・ like, likes の関係は, have, has の関係と同じあることを知る。 ○ 教師についてくり返し, 新しい文型になれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ likes の [s] の発音が聞きとれたか。 ・ 主語が He, She, Mike ... の時, like に s をつけること. Does, doesn't を用いる時は, 原形にもどすことをおさえる。 ・ like の後の s の有無に注意させて, ゆっくり言わせる。
<p>「あなたは ～ が好きですか。」 「Ito は ～ が好きですか。」 の問答をしなさい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 輪番法でする。 ・ つまづいている生徒をみんなで助ける。 ○ Workbook の基本問題に取り組む。 ○ テープ, 教師についてくり返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ s の発音をしっかりさせる。 ・ 答える時, 主語に注意させる。 ◎ 正しく聞きとれたか。又言えたか。 ・ 間違いに気づかせ, 記録させる。 ◎ 理解できたか。 ・ very の [v] の発音, baseball, basketball のアクセントに注意させる。 ◎ 正しく読めたか。
<p>「Tom は犬が好きですか。」 「はい, 好きです。彼は犬が好きです。」 「彼は猫が好きですか。」 「いいえ, 好きではありません。彼は猫が好きではありません。」 を英語で書きなさい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価表の課題に取り組む。 ・ 隣同志交換して, 正しく採点する。 ○ 宿題と次時の指示を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ like の後の s の有無に注意させる。 ◎ 正しく書けたか。 ・ 次時の Short Test までに自分の間違いを確認させる。

第1学年10組英語科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 古村 真佐子

1. 題 材 Lesson16 I like dogs.

2. 学 習 計 画 (4時間完了)

第1次 Part (1) …………… 1時間(本時)

第2次 Part (2) …………… 1時間

第3次 Part (3) …………… 1時間

第4次 復習テスト ……… 1時間

3. 本時の目標 (1) 既習の動詞 have を用いた文と対比して, like を用いた文を理解し, 表現できるようにさせる。
(2) 積極的に授業に参加しようとする態度を身につけさせる。

4. 準 備 テープ・レコーダー, ピクチャ・カード

授業の視点

- | |
|--|
| (1) バズ課題に生徒は意欲的にとりくんでいるか。
(2) 「Writing」の評価の位置, 内容は, 適切であるか。 |
|--|

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の復習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ショート・テストをする。 ・ 隣接法で答え合わせをする。 ○ 本時の目標をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ チャイムと同時に学習活動ができたか。 ◎ 正しく答え合わせができたか。 ◎ 誤答を正確になおせたか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">教師の言う2文を聞いて意味の違いを考えなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ have と like の意味の違いに気づく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の説明を聞く。 <div style="margin-left: 20px;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 5px;">{</div> <div style="margin-right: 5px;">I have an apple.</div> </div> <div style="margin-right: 5px;">I like apples.</div> </div> ・ 教師についてくり返し口頭練習をして新しい文型になれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動詞 like の用い方が have の場合と全く同じであることに気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 場面から意味の相違に気づいたか。 ◎ apple, peach が複数形になることを理解できたか。 ◎ like の否定文も have の場合と同様, don't を用いることを理解できたか。 ・ 疑問文も同様であることに気づかせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">like を用いた疑問文とその応答文を練習しなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 対人法で練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の単語を大いに活用する。 ・ つまづいている人を援助する。 ○ 本文の内容を通して理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ テープを聞いて文型, 新出語句に慣れる。 ・ テープ, 教師のあとについて音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間巡視で班活動を観察し活動を促す。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 正しく文が言えるか。 ◎ 複数名詞 -s は正確に発音されているか。 ◎ しっかり聞けて, 読めたか。 ・ 声を出して練習に参加させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">like を用いた疑問文に対する応答文を書きなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各自でとりくむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ like が正しく使えて書ける。 ・ 正答と比べて誤りがあれば訂正する。 ○ 次時の予告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な理解ができているかどうか挙手させる。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 正しく書けたか。 ・ Home Work, Short Test の準備をさせる。

第2学年10組英語科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 堀 場 正 美

1. 題 材 Lesson12 Akio Visits the Smith Family.
2. 学 習 計 画 (5時間完了)
 - 第1次 Part (1) 現在完了… 1 時間
 - 第2次 Part (2) 現在完了… 1 時間 (本時)
 - 第3次 Part (3) 現在完了… 1 時間
 - 第4次 Part (1)~(3)の復習… 1 時間
 - 第5次 復習テスト …… 1 時間
3. 本時の目標
 - (1) 現在完了(完了)の疑問文とその応答文に慣れ、書けるようにさせる。
 - (2) 学習に積極的に参加し、協力する態度を養わせる。
4. 準 備 テープ・レコーダー、ピクチャカード

授業の視点

- (1) 現在完了(完了)の否定文の意味の導入で書かせることにどれだけの定着が期待できるか。
- (2) 評価表をもとに確認過程で「書くこと」が十分に達成できるであろうか。
- (3) 積極的に学習に参加し、班での話し合いをしているか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 小テストをする。 • 教科書で各自が正答を確認，結果を評⑤価表に記入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">次の英文を聞いて意味を考えなさい。</p> <p style="text-align: center;">Have you cleaned your room? No, I haven't.</p> <p style="text-align: center;">I haven't cleaned it yet.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> • 前時の学習のポイントを確認させる。 ◎ 正しく文や単語が書けたか。 • 本時の目標に関連することを気づかせる。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在完了（完了）の疑問文と応答文の説明を聞く。 • Key Sentence を対人法で問答し合う。 • 意味・文型の理解度を評価表に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">P. 59 練習 B を口頭で言いなさい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> • プリントに意味を書かせる。 • not …… yet の使い方をおさえる。 ◎ 否定の応答文を正しく言えたか。 ◎ どの程度達成できたか。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人で考えて口頭練習する。 • わからない人はわかった人に聞く。 • 隣接法で問答をする。 ○ 本文の内容を理解する。 • 新出語句の発音と意味を確認する。 • テープを聞いて内容を班で話し合う。 • 教師の補足説明を聞きチェックする。 • 教師について音読する。 • 役割を分担して音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 意味も考えて，発音・読み方に注意させる。 ◎ 協力して練習できたか。 • 机間巡視して躓いている点の指導をする。 • 発音記号と文字に注意させる。 • yet と yes, seen と see, farm と far のはじめの音が同じ口形であることに気づかせる。 ◎ 内容を理解して音読できたか。 ◎ 積極的に班の話し合いに参加したか。
<ul style="list-style-type: none"> • 各自で考えて書く。 • 評価表に達成度を書く。 ○ 課題と次時予告をする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">現在完了の疑問文に対する応答文を書きなさい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • not …… yet に注意させる。 ◎ 正しく書けたか。 • ノートに問題文と答えの文を書かせる。

第3学年6組英語科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 奥村 富美子

1. 題材 Lesson 12 Science and You.

2. 学習計画 (6時間完了)

第1次 Part (1) …… 1時間(本時)

第2次 Part (2) …… 1時間

第3次 Part (3) …… 2時間

第4次 復習 …… 1時間

第5次 復習テスト…… 1時間

3. 本時の目標 (1) 間接疑問文を理解させ、表現できるようにさせる。
(2) 本文を読んで、内容を理解させる。
(3) 積極的に授業に参加させる。

4. 準備 テープ・レコーダー, プリ・ポストテスト用紙

授業の視点

- | |
|--|
| (1) 本時の授業で、プリ・ポストテストの役わりが果されているか。
(2) 本時の目標を理解させるのに適切な課題であるか。
(3) 課題に対して生徒の活動は積極的であるか。 |
|--|

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<p>○ プリテストをおこなう。</p>	<p>⑤</p>
<p>Do you know? に次の文をつけ加えなさい。 (1) Who is he? (2) What does he like?</p>	
<p>○ 間接疑問文の表現法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 疑問詞節内の語順が肯定文になることを理解する。 • 意味を考えながら暗唱する。 <p>○ 教科書 P66 練習 A の問題をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各自問題にとりくむ。 • 班で答合せをする。 • 発表する。 	<p>○ プリテストの結果を集計し、問題の意識化をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 問題の把握ができたか。 <p>⑩</p> <p>○ 語順、助動詞、三単現の S について、留意させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ be 動詞、一般動詞の場合の語順が、理解できたか。
<p>本分の内容を読みとりなさい。</p>	
<p>○ 新出語句を教師、テープのあとについて音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ペアで単語の発音・意味を確認しあう。 <p>○ テープを聞いて本文の内容をつかむ。</p> <p>○ 聞きとったことを確認しながら、日本語⑳に訳する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 発表や教師の補促説明を聞いて、確認する。 <p>○ 場面を想像しながら、本文の音読をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ペアで音読の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> • [ɔ:] [ə:] [au] の発音やアクセントの位置に注意し、発音練習させる。 • 内容の概略を説明する。 • 主語 + see + 目的語 + 原形不定詞, that の訳し方に留意させる。 ◎ 本文の日本語訳ができたか。 • ポーズ、イントネーションに注意させる。 ◎ 適当な音量で音読できたか。
<p>間接疑問文の問題にとりくみなさい。</p>	
<p>○ ポストテストにより、まとめをする。⑦</p> <p>○ 次時の予告をさく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 間接疑問文が理解できたか。

15組 数学科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第2時限

指導者 塚本 昇

1. 題 材 長さしらべ
2. 学習計画 (7時間完了)
 - 第1次 ものの長さを測る…… 2時間(本時1/2)
 - 第2次 単位の換算練習…… 3時間
 - 第3次 距離の測り方…… 1時間
 - 第4次 実測練習…… 1時間
3. 本時の目標
 - (1) 具体的な物(机, 本など)から, 長さをはかる単位を知り, 30cmのものさしの使い方に慣れる。
 - (2) 根気よく学習する態度を身につけさせる。
4. 準備 ものさし, プリント

授業の視点

- 低I.Qの生徒も学習に参加ができたか。
- 本時の課題は, 目標達成のための適切なものであったか。
- はっきりと発表することができたか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 計算練習 ○ 本時の学習内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> • 毎時間能力にあった計算練習をしないと <p style="text-align: center;">⑧</p> <p style="text-align: center;">能力低下するので、プリントで練習 (机間巡視, 不振生徒指導)</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">長さをはかる単位は、何がつかわれているか。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 長さの単位が何であるかを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> • 1cm . 10cm . 30cmの長さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> • 高 I.Qの生徒はよく理解をしているので低 I.Qの生徒を中心に m, cmの単位について考える。 • 長さの単位が理解できたか。(観察) <p style="text-align: center;">⑩</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">1 m は、およそどのぐらいの長さか調べなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 m の長さを 30 cm のものさしでどうしたらはかれるかを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 1 m がおよそどのぐらいかを腕幅で理解させる。 • 加法の応用ができないのでここで 30 + 30 + 30 + 10 の問題を練習。 • 1 m がどのぐらいの長さか理解できたか。 <p style="text-align: center;">⑩</p> <p style="text-align: right;">(相互評価)</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">机, ノートの縦と横の長さはどのぐらいか。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 30 cm ものさしで、机・ノートの縦横の長さを測定する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 低 I.Qの生徒は cm の単位で、高 I.Qの生徒は mm まで読みとらせる。 • 積極的に測定に参加できたか。 <p style="text-align: center;">⑩</p> <p style="text-align: right;">(相互評価)</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">プリントの長さを正しくはかりなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ プリントで 10cm . 7cm . 15cm . 3cm . 21cm の直線の長さを測定する。 	<ul style="list-style-type: none"> • cm の単位で正しく読み取らすようにする。 • 高 I.Qの生徒は時速の問題を出題する。 • cm の単位で正しく読み取れたか。 <p style="text-align: center;">⑦</p> <p style="text-align: right;">机間巡視 (不振生徒指導)</p>

第3学年1組国語科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第3時限

指導者 大脇 希文

1. 題材 唐詩鑑賞

2. 学習計画 (4時間完了)

第1時 読みの習熟をはかり、原詩を聞いて、音韻の美などをつかませる。

第2時 杜甫の「絶句」を通して、唐詩の味わい方をつかませる。(本時)

第3時 李白・王維の味を味わわせる。

第4時 他の唐詩を読ませ、さらに関心をたかめさせる。

3. 本時の目標 (1) 杜甫の詩「絶句」を味わうことによって、唐詩の読み方、味わい方をつかませる。

(2) 確実な評価活動をして、意欲的に学習に取り組ませる。

4. 準備 学習のポイント表、朗読評価表

授業の視点

- (1) 個人思考と集団思考のけじめがはっきりしているか。
- (2) 指導の調整と学習の調整としての評価活動が見られるか。

MEMO

批判的. 杜甫の詩「絶句」を味わうこと
[杜甫]
① 個人思考と集団思考のけじめがはっきりしているか。
② 指導の調整と学習の調整としての評価活動が見られるか。
③ 杜甫の詩「絶句」を味わうこと
④ 李白・王維の味を味わわせること
⑤ 他の唐詩を読ませ、さらに関心をたかめさせること

Pre-test
① 個人思考と集団思考のけじめがはっきりしているか。
② 指導の調整と学習の調整としての評価活動が見られるか。
③ 杜甫の詩「絶句」を味わうこと
④ 李白・王維の味を味わわせること
⑤ 他の唐詩を読ませ、さらに関心をたかめさせること

feedback. 補正時の学習内容
学習のポイント表

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<p>○ 「五月ばかりの山里」を朗読する。</p>	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価表によって相互評価する。 ・本時の目標と、白文を板書する。
<p>唐詩をどのようにして味わったらよいか。</p>	
<p>○ 味わい方をグループで話し合い、発表する。 ○ 目標をつかむ。 ○ 杜甫「絶句」の原文を対人で音読しあう。</p>	<p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通釈できること、情景・心情を読みとることをはっきりさせる。 ・読みは、お互い一回にする。 ◎ 「欲然」の読みはよかったか。(挙手)
<p>通釈を通して、情景・心情をつかみなさい。</p>	
<p>○ 板書を見て、意味のとれない漢字を、各自手をあげて言う。 ○ 白文から、ほかに気づくことはないか考え、各自気づいたことを発表する。 ○ 対人で、各自の考えた通釈を発表しよう。 ○ 指名により、通釈を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・板書した白文に、発表された漢字の印をつけ、通釈に必要な程度で意味をつかませる。 ・起承転結、対句、絶句など唐詩鑑賞に必要なことを、色・場面の大きく違うところなどに注意してつかませる。 ・場面（南国の春）ということを描かせながら通釈させる。 ◎ 通釈でつまづきはないか。(机間巡視)
<p>○ 解説文を参考にして、次のことを考える。 ・ 作者は、この詩で何をうたいたいか。 ・ 作者は、今どこにいてこの詩を作ったか。 ○ 考えたことをもとにして、グループで話し合い、全体へ発表する。 ○ 都（長安）から離れて、南国で、流浪の生活のわびしさ、憂いをうたっている杜甫の気持ちをつかむ。</p>	<p>⑫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表をさせてから、補説する。 ・ 「帰年」に注目させる。 ・ 「白が旅人の悲しさをいさなう色」「推移の感覚」「官吏としての地位を再び得る」「自然がそのエネルギーを、最も充実した形で示す時間」 ・ 杜甫の境遇についても少しふれる。 ◎ 意見が活発に出ているか。(机間巡視)
<p>杜甫の詩の鑑賞を、ポイント表を使ってまとめなさい。</p>	
<p>○ ポイント表に、きょうの学習事項をまとめる。 ○ 次時の学習内容を知る。</p>	<p>⑮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間が不足することが予想されるが、残った場合は、家庭学習でまとめてくることを指示する。 ◎ ポイント表での整理がうまくいっているか。(机間巡視)

手紙の書き方
お礼状の書き方
謝状の書き方
依頼状の書き方
案内状の書き方
お祝い状の書き方
お悔い状の書き方
お詫言状の書き方
お慰問状の書き方
お慰労状の書き方
お慰謝状の書き方
お慰問状の書き方
お慰労状の書き方
お慰謝状の書き方

第3学年6組社会科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第3時限

指導者 尾 関 昭 彦

1. 単 元 家庭の経済と企業

2. 学 習 計 画 (9時間完了)

第1次 消費生活と家計 …………… 2時間

第2次 生産のしくみと企業 …………… 6時間(本時5/6)

第3次 商品流通のしくみとはたらき…… 1時間

3. 本時の目標
- (1) 資本主義経済のもとにおける自由競争では、企業集中の傾向が生まれることを理解させる。
 - (2) 企業集中の形態には、どのようなものがあるか、その主要な形態について理解させる。
 - (3) バズノートを利用し、自分の意見や疑問をもって積極的に話し合いに参加できる態度を養う。

4. 準 備 教師：企業合併の例 生徒：公民資料集

授業の視点

- 本時の目標を達成しうる課題であったか。
- 課題解決の過程で、即時評価がどのように生かされているか。
- 確認課題と取り組むことにより、本時の学習内容を理解するとともに、発展的課題に気づいたか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ③ ・ 本時の中心課題を板書し，学習のめあてをはっきりとつかませる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">資料集P37「生産集中度」をあらわした資料からどんなことがわかるか考えなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料をもとにして考える。 ・ 個人→班→全体へと話し合いを深める。 (考えられる発言) ・ わずかの企業が生産を独占している。 ・ 大企業の生産量が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ ・ 話し合いを通して，日本の総生産のうちの大部分を少数の企業が生産していることをつかませる。 ・ 「企業の集中」ということを指導する。 ◎ 「企業集中」の意味がわかったか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">資料「合併の例」をみて，企業はどうして合併していくのか考えなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ製品を作っている企業同士の競争が激しくなるとどうなるか考える。 ・ 個人→班→全体へと考えを深める。 (考えられる発言) ・ 競争→宣伝・値下げ→利潤の低下→共倒れの危険→企業集中。 ・ 資本が大きくなり，競争に勝てる。 ・ 倒産を防ぐ。 ○ 競争をさける手段としての企業集中の形態の意味をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑫ ・ 資料「合併の例」を説明し，小課題を考えさせるなかで中心課題へせまらせる。 ・ 全体の中での発言をもとにして，企業集中の形態へ発展させる。 ○ カルテル・トラスト・コンツェルンの内容について⑬の図を利用して説明する。 ◎ カルテル・トラスト・コンツェルンがどんなねらいで形成されていったかがわかったか。 ◎ 場合によってはフィードバックする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">企業集中が消費者にどのような影響を与えるかを考えなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人で考えた後，班で話し合い，社会科バズノートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ ・ 本時の内容を確認しながら課題を考えさせる。 ◎ 企業サイドにたって考えてきた本時の内容を，発展的に消費者側からとらえることができるかを評価する。

第1学年6組数学科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第3時限

指導者 永野 進

1. 題 材 関数のグラフ

2. 学習計画 (8時間完了)

第1次 座 標……………2時間

第2次 いろいろな関数のグラフ……………3時間

第3次 問題A. B……………3時間(本時2/3)

3. 本時の目標 (1) 与えられた条件から、グラフを利用して正比例、反比例の関数関係を式に表わせるようにする。

(2) まず自分で考え、意欲的に学習にとりくむ態度を養う。

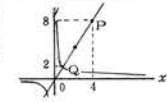
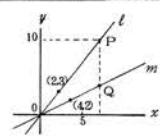
4. 準 備 教師 小黒板, プリ・ポストテスト用紙

授業の視点

- 中心課程における生徒達の相互活動の状態。
- 準備課程のバズと中心課程のバズについて。
- プリテストという形での生徒への意欲づけについて。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<p>○ プリテスト</p> <div data-bbox="359 336 1220 448" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>右の図は、正比例のグラフと反比例のグラフを書いたものである。P(4, 8)で、交点Qのy座標は2であるとき、反比例の関係を表わす式を求めよ。</p>  </div>	<ul style="list-style-type: none"> • プリテストにより意欲づけをする。
<ul style="list-style-type: none"> • 教科書、ノート等を参考にして問題に取り組む。 ○ 本時の目標指示 	<ul style="list-style-type: none"> • 机間巡視 (観察) ⑤ • 式ができたと思う人を確認 (挙手) • 認知目標、態度目標について
<div data-bbox="359 604 1220 694" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>正比例 $y = ax$ のグラフを書いたら、点(10, -6)を通る直線になった。この正比例の関係を表わす式を求めよ。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 各自ノートにやる。 • 2人ペアで考え方を確認する。 ○ 発問(2, 6)を通る直線の式を求めよ。 	<ul style="list-style-type: none"> • まず考えさせる。 • $y = -\frac{3}{5}x$ を得た人を確認 (挙手) ⑩ • 比例定数 a の決め方をおさえる。 • 状況に応じて問題の数を考える。 • 解答をいって、正解者を確認 (挙手)
<div data-bbox="359 907 1220 1064" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>直線 l, m は正比例のグラフで、l は点(2, 3)とPを通り、m は点(4, 2)とQを通っている。直線PQはx軸に垂直である。このとき、Pのy座標が10であるとき、Qの座標はいくらか。</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各自問題を読み意味を把握する。 • となりの人に問題を説明してみる。 ○ 各自考えたことをノートにメモする。 ○ できたところまで話し合う。 ○ 結論の出た人が考え方のすじ道を発表する。⑩ <ul style="list-style-type: none"> • Pのx座標を求めるには l の式が必要。 • Pのx座標とQのx座標は同じである。 • Qのy座標を求めるには m の式が必要。 ○ 説明で理解した人を中心にして、再度話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> • まちがってもよいから自分の考えをもつ大切さを強調する。 • 机間巡視 (状況把握) • 班内の話し合いに参加 (思考把握) • 発表をまとめる。(是認, 否認) • 再度考えさせる。 • 失敗を恐れず発言し、疑問点があれば必ず出せたか。(相互活動)
<div data-bbox="359 1456 1220 1512" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>プリテスト課題に同じ</p> </div>	
<ul style="list-style-type: none"> • 各自解いてみる。 ○ 話し合いにより疑問解決する。 ○ 本時の反省、次時予告 	<ul style="list-style-type: none"> • ヒントとして、反比例は $y = \frac{a}{x}$ を示す。 • 机間巡視で不振児の指導をする。 ⑩ • 関係式のできた人を確認する。(挙手) • 比例定数、座標等の求め方をまとめる。 • 認知、態度目標の評価

第2学年6組理科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第3時限於第2理科室

指導者 影山 雅 乙

1. 単 元 原子と分子
2. 学 習 計 画 (5時間完了)
第1次 化学変化のモデル化…… 3時間
第2次 分子の大きさ…… 1時間(本時)
第3次 化学式と化学反応式…… 1時間
3. 本時の目標 (1) オレイン酸の分子の大きさを測定することができる。
(2) 話し合いや実験に積極的に参加し、協力して学習する。
4. 準 備 OHP, TP, 実験の用具, 薬品(オレイン酸のアルコール溶液, リポソーム, ものさし, スポイド, メスシリンダー, 水そう)

授業の視点

- プリテストの実施は、問題の意識化や授業のヤマ場の設定に有効であったか。
- 分子の大きさの測定方法についてのバズは、この授業において効果的であったか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
○ プリテストをおこなう。	④ ○ 学習課題表に答を記入させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(1) 100 cm^2 のあづきを机の上にすきまなくならべ、正方形に広げたところ、200 cm^2 になった。これからあづきの直径を求めなさい。</p> <p>(2) 同じ大きさの雨つぶを50滴集めたら 1 cm^3 になった。1滴の体積を求めなさい。</p> <p>(3) オレイン酸の分子の大きさが測れますか。</p> </div>	
○ 班ごとに答を確認する。	○ 解答をOHPで提示し、とくに体積・面積・直径の関係、オレイン酸の性質について理解させる。 ③ ◎ 直径=体積/面積であることが理解されているか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>オレイン酸の分子の大きさを測定しなさい。</p> </div>	
○ 実験方法について話し合う。 ・ まず考える → 話し合う → 発表する。 ○ 実験の順序や係分担について話し合う。 ○ 班ごとに実験をする。 ・ オレイン酸1滴の体積をはかる。 ・ オレイン酸膜の面積をはかる。	○ 生徒にこの実験方法をくふうさせることはむづかしいと思うが、プリテストの結果などを生かして、いろいろと考えさせるようにする。 ◎ 実験方法がくふうできたか。 ○ 観察ノートを参考にして話し合わせる。 ◎ とくにつぎの点に注意させる。 ・ オレイン酸1滴の体積測定は、数回の平均をとる。 ・ オレイン酸の面積測定は、すばやくおこなう。 ○ 机間巡視をして注意事項を徹底させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>オレイン酸の分子の大きさを計算しなさい。</p> </div>	
○ 実験資料を班ごとにまとめる。 ・ 観察ノートに班の測定結果を記録し、計算する。 ○ 実験器具をかたづける。 ○ 次時の予告を聞く。	○ 測定結果をもとに、分子の大きさを計算させる。 ◎ 分子の大きさの測定法がわかったか。 ◎ 実験器具のあとかたづけなどの係分担が責任をもって果せたか。

第1学年2組音楽科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第3時限於音楽室

指導者 平 井 豊 秋

1. 題 材 旅 愁

2. 学 習 計 画 (3時間完了)

第1時 主旋律の歌詞唱・2部合唱の練習。

第2時 2部合唱の習熟・非和声音についての理解(本時)

第3時 2部合唱+器楽伴奏・創作「和音とメロディー」

3. 本時の目標 (1) お互いに相手の声部を聞きながら2部合唱ができるようにする。
(2) 非和声音について理解させる。

4. 準 備 教師 アルトリコーダー・プリント・進度表
生徒 アルトリコーダー・プリント

授業の視点

- ・ アルトリコーダーの練習は班ごとに協力して意欲的にできたか。
- ・ プリントの問題をやることによって非和声音の理解が深まったか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<ul style="list-style-type: none"> ○ アルトリコーダーの練習をする。 ○ 班ごとに練習や審査をする。 ○ 3～4つの班が発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 笛が苦手な生徒の個人指導をする。(机間巡視) ○ 生徒同志で相互評価をする。 ○ 教師が即時評価をする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">二部合唱をしなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高音部・低音部にわかれて旅愁の二部合唱をする。 ○ パート練習をする。 ○ 二部合唱をする。 ○ 美しいひびきになっているか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 姿勢・口の形に注目する。 ○ ちがった音程でうたっていないか相互評価をする。 ○ パートのバランスを考えて二部合唱ができたか。(相互評価)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">1段目のメロディーは、どんな和音がもとになって作られているか考えなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 指名された生徒は発表する。 ○ 非和声音について教師の説明を聞く。 ○ 非和声音の大切さと、非和声音を見つける方法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ $INV V_7$ で答えさせる。 ○ できるだけ音を通して説明をする。 ○ 非和声音について理解できたか。(挙手)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">プリントの問題をやりなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ $INV V_7$ の記号を書き、非和声音に×印を書き入れる。 ○ 班で答あわせをする。 ○ 指名された生徒は答を発表する。 ○ 正解を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 机間巡視 ○ よく理解できていない生徒に個人指導をする。 ○ 自己評価をさせる。 ○ 何人の生徒ができたか調べる。(挙手)

第2学年4組美術科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第3時限

指導者 林 敏 明

1. 単 元 版画 — 多色刷り —

2. 学 習 計 画 (14時間完了)

第1次 多色木版について、題材の決定 …… 1時間

第2次 アイデアスケッチ …… 1時間

第3次 下絵の構成 …… 2時間

第4次 下絵の着色 …… 3時間 (本時 2/3)

第5次 版の彫りと刷り上げ …… 6時間

第6次 鑑賞・反省 …… 1時間

3. 本時の目標
- (1) 形態の単純化とともに調和のある配色、計画的な着色ができる。
 - (2) 配色計画にもとづく作品の検討をし、意欲的な制作ができる。

4. 準 備 生徒作品、着色用具、スケッチブック

授業の視点

- 班の発言が学級全体の学習を進めるなかでどのようなかわりをもったか。課題は単に理解する、記憶するのではなく、発見する、創作するものであったか。
- 即時評価は各過程で適切に行なわれたか。
- 本時の目標にどの程度せまることができたか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の目標を把握する。 • 計画的な配色で制作する。 • よりよい作品を意欲的につくる。 ③ ○ 今までの下絵を再検討する。 • 配色は計画的にすすめたかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作意欲への動機づけとする。 • 配色効果の重要性を理解させる。 ○ 自己の制作方法に疑問をいだかせる。 ◎ 配色計画に疑問を感じたか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">配色計画はどのようにすればよいか考えよ。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己の下絵の反省をし、どんな点に留意して着色したかを考える。 • 既習事項から想起して留意すべき点を⑦明確にする。 ○ 班ごとに配色計画について発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ どんな配色計画があるかを生徒に見い出させる。 • 課題に対する考え方の糸口を助言する。 ○ 前時の学習とのかかわりを大切にする。 • 配色計画の焦点化をはかる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">配色計画に従って修正し、着色せよ。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 何を修正すべきか。どの計画で進めるか。を決め制作する。 • 類似の配色、対照の配色、無彩色を混ぜた配色、白や黒を使った配色の中から⑧選ぶようにする。 ○ 全体に共通な問題点を上げ、自己の作品と見比べてみる。 ○ 再度留意点をふまえて着色する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各自に計画を明確にさせる。 • それぞれの方法で留意すべきことを補説する。 ◎ 着色の方法、理解のずれはないか。(個別指導) ○ 班で問題点を指摘し合い、他のよい所を積極的に取り入れるようにさせる。 ◎ 問題点に気づき積極的に制作したか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">互いに下絵を比評し、自分の作品を見なおせ。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 先の作品と比較し、配色効果を検討する。 ○ 学習表に記録する。 ⑤ • 自己の次時へのめやすを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後留意すべきことを確認する。 ◎ どうよくなり、残った問題は何か。

第1学年9・10組(男子)体育課学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第3時限於体育館

指導者 小 森 好 治

1. 題 材 器械運動

2. 学 習 計 画 (14時間完了)

第1次 鉄棒運動 …………… 5時間

第2次 マット運動 …………… 5時間 (本時 2/5)

第3次 とび箱運動 …………… 4時間

3. 本時の目標

- (1) 開脚前転・開脚後転ができるようにする。
- (2) 前転→開脚前転・後転→開脚後転へと発展させる。
- (3) 評価活動を通してお互いに協力し健康・安全に留意し自己調整機能を養う。

4. 準 備

教師側 マット12枚 踏み板6台

生徒側 運動技能評価表

授業の視点

- 運動技能評価表による生徒同志の評価は適切であったか。
- 課題の構成・提示のしかたはよかったか。
- 評価活動を通して生徒が意欲的な態度がみられたか。

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指導上の留意点・評価
<ul style="list-style-type: none"> ○集合・整列・準備運動 <ul style="list-style-type: none"> ・各班ごとに集合し整列し、健康観察をする。 ・準備運動を行ない、マット 踏み板を準備し点検をする。 ○本時の説明 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を聞き、学習意欲を持つ。 ○前転・後転の取りくみ方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察を行ない、服装・見学者の指示をする。 ・準備運動では関節を重点に柔軟運動を行なわせる。 ⑩ 班での協力性・安全への配慮がみられたか。 ・技能評価表をみさせることによって、開脚前転・開脚後転の課題を確認させる。
<p>前転・後転に取り組みなさい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・前時に行なった学習内容を想起しながら行なう。 ・運動技能評価表により班あるいは個人によって評価しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班巡視を行なう。 ⑤ 手・頭・背の位置はどうか、技能のポイントについて相互評価させながら定着化を図る。
<p>体の煽りを利用し開脚前転をしなさい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ひざ、脚を伸ばした姿勢から開脚に入り手前に手をつき立つ。 ・できる者は手をつかずに行なったり、できない者の補助をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・足をマットにつけると同時に体を前へつき出すように留意させる。 ⑩ 班巡視を行ない生徒の状態、反応を知り、それに応じフィードバックさせ、意欲をもたせる。
<p>回転力を利用し開脚後転をしなさい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・回転力を身につけて後転ができるよう練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回転の方向、開脚のタイミングに注意する。 ⑩ 各班ごとに随時、技能評価表などを利用し、後転からの回転力を身につけるようにさせる。
<p>煽り・回転力を利用して行ないなさい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・連続技能がスムーズにいくようにする。 ○整理運動・整列をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・整理運動を行ないマットを運び整列し、班ごと評価表に書き込み、次時の課題を発見する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体や脚の曲げ伸ばしのリズムをつかませる。 ・本時の課題について生徒同志で再評価させ開脚から前転・後転をする。 ⑩ 運動技能評価表に書き込み中で自己のつまづきを気づかせ次時の意欲をもたせる。 ・最後まで協力性がみられたか。

第1学年9・10組技術・家庭科(女子向き)学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第3時限於1の10

指導者 田 川 正 子

1. 単 元 木製品の設計

2. 学習計画 (5時間完了)

第1次 もののできるまで………1時間

第2次 設計の要素………2時間(本時2/2)

第3次 構想図………2時間

3. 本時の目標 (1) 木材の組織や性質から、板のじょうぶな使い方を知る。
(2) 自分の考えをもって積極的に話し合いに参加することができる。

4. 準 備 木材 O.H.P プリ・ポストテスト用紙, TP資料

授業の視点

- | |
|---|
| (1) 本時の課題は、目標達成のために適切であったか。
(2) 相互活動により、自己の考えが確かめられ修正されているか。 |
|---|

MEMO

5. 学習課程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<ul style="list-style-type: none"> ○ プリテストを行う。 ○ 本時の学習内容・目標を確認する。 	<p style="text-align: center;">⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目標をT.Pで示す。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">木材を観察し、組織について調べなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 班で木材を観察し、気づいたことをノートする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 色の違い、年輪、硬さ、水分 ○ 指名された生徒は、発表する。 ○ まさ目板と板目板を観察し、材のとり方を調べる。 ○ 木材の組織について教師の説明を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 名称、含水率、材のとり方、年輪等。 	<p style="text-align: center;">⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の反応を見て、樹皮と樹心に分けて観察するよう指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 全員参加して観察を行なっているか。 ○ 相互思考 <ul style="list-style-type: none"> ○ こぐらの年輪の違いに気づかせる。 ○ 自分の考えをもって話し合いに参加しているか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">木材の性質からじょうぶな板の使い方を考えなさい。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 変形した板を観察し、その理由について話し合う。 ○ 繊維の強さを実験で調べ、木材の性質についてまとめる。 ○ じょうぶな板の使い方をまとめ、ノートする。 	<p style="text-align: center;">⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ガラス、鉄板等他の素材と比較させる。 ○ 組織についての説明を思い出させる。 (含水率、材のとり方) ○ 実験や話し合いに全員参加しているか。 ○ 繊維の強さ、変形から考えさせる。 ○ 生徒の反応により自己または相互活動。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">木材の組織や性質から板のじょうぶな使い方がわかったか。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ ポーテストを行ない、班で確かめ合う。 ○ 次時予告 	<p style="text-align: center;">⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 相互活動の結果から短学活や家庭学習への指示をする。

第2学年2組英語科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第3時限

指導者 川 口 四 郎

1. 題 材 Lesson 12 Akio Visits the Smith Family

2. 学 習 計 画 (5時間完了)

- | | | | |
|-----|----------|------------------|----------|
| 第1次 | Part (1) | 完了を表す現在完了形 … | 1時間 |
| 第2次 | Part (2) | 完了を表す現在完了形 … | 1時間 |
| 第3次 | Part (3) | 経験を表す現在完了形 … | 1時間 (本時) |
| 第4次 | 復習 | Part(1)~(3)の復習 … | 1時間 |
| 第5次 | まとめ5 | 現在完了形のまとめ … | 1時間 |

3. 本時の目標
- (1) 経験を表す現在完了形とともにever, neverの用法を学ばせる。
 - (2) 積極的に学習活動を行ない、目標を達成しようとする意欲を養わせる。

4. 準 備 テープ・レコーダー, ピクチャ・カード, フラッシュ・カード

授業の視点

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 本時の目標を達成するのに適切な課題であるか。(2) 授業の流れの中で, Writingの位置づけは適切であるか。(3) 課題に対する生徒の活動は意欲的であるか。 |
|--|

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指導上の留意点・評価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の復習（小テスト）をする。 ○ 正答を確かめ、評価表に記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ not yet, How far is it ~ ? が正しく書けたか。
<p>次の英文を聞き、「～したことがあるか」「～したことがある」「～したことがない」を英語ではどう表現するのか考えなさい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本文を理解する。 ○ 基本文を注意して聞く。 ○ 教師の説明を聞く。 ○ 教師の後について基本文を音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ever, never を伴うと、現在完了形が「経験」の意味になることに気づかせる。 ○ Have you ever ~ ? I have (never) ~ が音声・文字両面から理解できたか。
<p>Have you ever ~ ? Yes, I have ~. No, I have never ~. を用いて問答しなさい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ プリントを用いて練習する。 ○ 教師の後について問答する。 ○ ペアを組んで問答する。 ○ 本文の内容を理解する。 ○ 新出語句を含んだ文を音読し、意味を確かめる。 ○ テープを聞き、内容を班で話し合う。 ○ 各自、本文を音読し、内容を理解する。 ○ 疑問点があれば出し合い、解決する。 ○ 補足説明を聞き、ポイントを確認する。 ○ テープの後について音読する。 ○ パートを分担して対話する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 練習によってこの用法に慣れさせる。 ○ 新出語句 climb, Mt. の説明を加える。 ○ 机間巡視して活動状況を観察する。 ○ よどみなく問答できるようになったか。 ○ Dialog の中で、経験を表す現在完了形の用法を理解させ発展させる。 ○ How often have you been ~ に触れる。 ○ 教科書を閉じさせる。 ○ 話し合いによって、疑問点が解決できたか。 ○ それぞれ役になったつもりで対話させる。
<p>「あなたはアメリカへ行ったことがありますか。」「いいえ、1度も行ったことはありません。イギリスなら1度行きました。」を英語にかえなさい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価表に解答する。 ○ 正答と比べ、誤りがあれば訂正する。 ○ 課題 (P. 60 練習 D) と次時の予告を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ visit, have been いずれを用いてもよい。 ○ 「書く」ことによって、経験を表す現在完了形の用法が理解されたか。

15組英語科学習指導案

昭和50年11月28日(金) 第3時限

指導者 渡辺俊二

1. 題材 会話2. This is a _____
2. 学習計画 (3時間完了)
第1次 会話2. This is a _____ …… 3時間 (本時2/3)
3. 本時の目標 (1) Full Sentence.による英文の言い方に親しませる。
(2) 身近なものの名前を英語で言ったり、聞いたりして、英語に対する興味や関心を深めさせる。
4. 準備 ・ ABCかるた (単語カード)

授業の視点

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 自分の身のまわりの生活について、理解し、英語で表現できるようにする。(2) 言語活動が、単に英語と日本語との置き換えに終わらないようにする。(3) 話しことばを中心に、みんなで協力して、元気よく学習できるようにさせたい。 |
|--|

MEMO

5. 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<p>○ 日常のあいさつを英語でする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • T→P, P↔P, P→T, であいさつを⑤する。 	<ul style="list-style-type: none"> • イントネーション, 発音に充分気をつけさせる。 ◎ 十分声を出して言えたか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ABCSONGを元気よく歌いなさい。</div>	
<p>○ 楽しく英語の歌を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一字一字ははっきりと発音する。 • 活字体の大文字を思いうかべながら歌う。⑩ 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ABCが26字とも読めるか。 • 5～6字全員に聞いて確認させる。 ◎ 大きな声で歌えたか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「ABCかるた」を使ってかるたとりを行ない, “This is a ~”という表現をしなさい。</div>	
<p>○ カードを拾わせ, This is a ~, という表現をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 身近なものの名前をできるだけたくさんおぼえる。②⑩ <p>○ 簡単な英語の質問に答えられるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • できるだけはっきりと単語を発音させる。 ◎ 上位の生徒1名に読ませる。 ◎ 正しくカードをとれたか。 ◎ 楽しくかるたとりができたか。 ◎ 英語の質問に正しく答えられたか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">先生の説明をよく聞き, 黒板の文字を写しなさい。</div>	
<p>○ 自分の拾ったカードを, 順番に班の中で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • WORD CARDSの絵を見て, 英語で言う。⑩ • 日本語で単語を言って, 英語で言えるようにする。書く練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 書く練習をさせる。単語を書けない生徒は, カタカナで書かせる。 ◎ 正しく文字を書くことができたか。 ◎ アルファベットに興味を持って学習できたか。

教 科 別 要 項

i. 国語科での実践

1. 国語科の評価についての考え方および評価活動計画

(1) 国語科の評価の考え

生徒の間の相互作用に着用して発想されたバズ学習では、生徒間で課題に対する理解や態度の評価がたえず行なわれているはずである。では、その評価が的確なものであり、ひとりひとりの生徒の主体的な学習に結びついているのであろうか。評価（即時評価）をある角度から考えてみると二つの面からとらえることができる。一方は教師の指導の調整のそれであり、他は生徒の学習の調整の評価である。つまり、評価は調整作用と結びついているものと考えることができる。そう考えてみると、生徒の学習の調整作用は（自己の学習の調整－自己の目標の決定－自己学習）というように、主体的な学習に発展するはずである。そこで、評価を意図的に学習過程のなかに位置づけていけば、ひとりひとりの生徒の主体的な学習がなされていくことと思われる。

(2) 評価活動計画

ア. 学習過程における評価の位置や方法を考え、実践する。

イ. 四分野に適した評価方法を考え、実践する。

ウ. 評価の意味を学習させる必要がある。その具体的な実践の場を設定すること。（生徒の実態・興味・継続性などから朗読学習を毎日の授業のなかに組みこむ。）

2. 実践例

(1) 学習過程における評価

学習過程のなかで評価をどのように位置づけるか、方法をどうするかは重要な問題である。国語科としては教材によって大きく左右されるので常時一定の位置づけは不可能である。そこで、次のように考えて実践している。

ア. 教師の指導の調整のための評価 — 挙手・生徒の反応・机間巡視

イ. 生徒の学習の調整のための評価 — 発表・説明・ノート

ウ. 班活動の調整のための評価 — 班長による評価

〔考察〕評価を教師の指導の調整と生徒の学習の調整とに判然と分けることは不可能ではあろうが、少なくとも課題に対する評価をそのように意識的に教師がとらえることは、教師の授業の組み立てや生徒の主体的な学習にプラスになるとと思われる。

(2) 分野別の評価

ア. 聞くこと話すこと

評価の観点を示して話す内容を検討させるとともに、観点によって発表の内容を点数で評価する実践。〔方法〕①7つの班が9項目で9点ずつもつ（1点×9項目×7班＝63点）②教師は1項目につき3点もつ（27点）③参加点を10点とする④発表した直後に各班は9項目を検討して点数をカードで示す⑤教師は記録用紙に点数を記入する⑥教師の批評〔考察〕①評価の観点到留意して話せ

ば相手によく伝わるものだという事に気づいた。②話の構成や練習に意欲をもって取り組み、発表力にやや欠ける生徒も真剣に家庭での練習に取り組み、今までにない活発な授業展開がみられた。③評価する者は話を聞きながら自分のものと比較することで自己調整することができた。

イ. 読むこと

読解のポイント表・鑑賞のポイント表・課題表を使い、それぞれのポイント进行评估させながら学習をすすめる実践。〔論説文の読解のポイント例〕①形式段落に番号をつける②段落相互の関係をつかむ③接続詞に傍線をつけ接続型をつかむ④指示語に傍線をつけ指し示す語をつかむ⑤中心文(中心語)をつかむ⑥要約する⑦構成図をかく〔考察〕生徒に学習の方法を学習させる必要がある。国語の読解や鑑賞はほんやりしていて何をてがかりにしたらよいかわからないと生徒からよく質問をうける。しかし、ポイントで着眼点を示すことにより、てがかりが与えられ、自主的に学習でき、活発に意見交換ができるようになった。それゆえに、教師はポイントを示したり、具体的に課題表を提示して、教材に積極的に取り組むてだてを作ってやることが肝要である。

ウ. 書くこと

課題表で評価の観点を示し、構想表をつくり、短歌の鑑賞文を書く実践。〔考察〕作業段階の評価の観点を示すことによって、自己評価と相互評価を密接に組み合わせ、それぞれの評価を確実にさせて学習をすすめるのであるが、ただ、個人差による進度差に問題がある。しかし、その問題も確実に(自己評価-相互評価)のパターンにより、意欲的になり克服される。また、それぞれの段階の重視により作品主義的な作文指導も克服される。

エ. 文 法

ブリテストを使って学習の課題を把握させる実践。〔方法〕①何もみないで自分でやる②班で検討する③教科書の説明を読む④分析らんじに記入する〔考察〕①意欲をもって取り組む。②なにを学習するのか明確にとらえる。③教科書の説明を慎重に読み自主的に解決せんとする。

(3) 朗読学習の評価

読むことの分野で朗読指導はとかく軽視されがちである。だが、毎日継続することによって興味や意欲を持ち、また、評価の意味も実践のなかで理解できるとの理由から設定した。〔場〕授業開始後の5分間。班単位。〔方法〕範囲は計画表で指示。それに基づいて1名が朗読し他の者が評価する。〔考察〕①相互評価が生徒を変えていくことに気づいた点や読む姿勢が意識化された。②能力が如実に評価表に示されるので各自の調整作用は当然行なわれる。教師はその点を考慮して助言や励ましをしてやること。③学習過程の評価活動に転移する。 ※実践した評価の例は別紙で

8. 問 題 点

評価が生徒の学習の調整のために役立ち、ひいては生徒の主体的な学習に結びつくとの仮説を立てて実践しているのであるが、それが生徒全員に理解され、真にひとりひとりの生徒をゆり動かし意欲的な学習状況をつくっているか。評価の形式面にとらわれていることが多々あるのではないか。評価についての学習を深めると同時に生徒の納得のいく場(学習調整の場)を教師が意図的につくり、ひとりひとりの生徒の指導を地道にすることが今後の課題である。

ii. 社会科での実践

1. 社会科における即時評価のねらい

「知識の切り売りだけでなく、多様な情報の氾濫する現代社会で、主体的に課題ととりくみ解決できる能力と態度を育成し、社会的意識を育てる授業を……。」わたしたちのこんな願いが、社会科における即時評価活動の研究の基盤になっている。


バズ学習においては、周到に用意された課題とそれにもとづく生徒の相互活動による理解と思考の深まりが、授業が成功するために必要なことはいうまでもない。この場合、社会科では、生徒の生活経験や既習の知識に依拠して課題の解決を目指すことが多いため、理解や思考の内容は多様である。そのため、学習活動をたしかめ、社会科の基礎的知識の理解の促進と定着を図るとともに、新しい認識をもとにした社会的意識を培う即時評価をする必要があるだろう。すると、生徒は即時評価の活動により理解が深まったか否かを明確にする過程で、さらに理解を深める努力や新しい課題をとらえ、それととり組む意欲を持つことになるだろう。また、即時評価のくり返しと相互活動は、自ら学習をすすめることのできる、つまり、自己調整のできる生徒を育てることになるだろう。

上述のような仮説のもとに、学習の流れのなかで即時評価をし、自己実現を追求する授業過程の研究をこころみた。

2. 授業の組み立て

社会科に限らず、一般的な学習過程の中では、課題 → バズ → まとめ → 評価という順で、評価がなされている。しかし、社会科においては、もちろんこの過程も大切にしていけるのではあるが、授業の最後の段階で実施する評価を重視したい。もともと社会科の本来のねらいは、単なる知識を理解させるのではなく、その新しい知識、認知をもとにして、どのような考えをもつようになったのか、自己の考えをどう変革したのか、新しい認知によってどのような疑問を抱くようになったのかという自己啓発である。したがって即時評価も、当然のことながら生徒の意識の変容がどのようになされたかをみるべきである。この観点にたつて、授業の最後の確認課題を評価との関連の上でとらえてみた。つまり確認課題はそれを考え、話し合うことによって、授業をふまえた上での新しい考え方ができるかどうかという点で社会科評価とのかかわりがある。ここに社会科における即時評価の独自性がある。この評価を具体的に認識できる手段として、社会科バズノートを各班ごとに作成した。バズノートでは班内の相互評価によって、考えたことを記述するものとしている。

このようなバズノートによる社会科独自の評価と学習のながれのなかでの即時な評価を組み入れた社会科授業の組み立てを以下のように考えてみた。

- 準備課題と評価  中心課題へ迫るための課題で、基礎的事項がわかったかどうかたしかめ、わからない生徒が多い場合は、フィードバック情報を与え、再びバズ活動をさせる。
- 中心課題と評価 本時の中心に迫る課題ととり組ませ、理解の確認や思考をうながすために、学習の中心になる中味がわかったかどうかたしかめたり、思考のつまずきをたし

かめ、フィードバック情報を与え、再びバズ活動をさせる。

- o 確認課題 確認課題を解決することにより、本時の学習内容の理解の確認と定着を図り、内容確認から、つぎへつながる発展的課題を誘発させる。

この評価活動を実施するにあたって、生徒につぎのようなことを期待した。

- o 確認課題を通してバズノートに記述することは、本時の学習内容が理解できたと同時に、すでに学習した内容を新しい視点からとらえ直すことができ、さらには、つぎへの関心、興味を喚起し、学習とのとりくみの意欲化を図ることになるであろう。
- o バズノート記述の積み重ねをしていけば、社会的なもの見方、考え方が身についてくるのではないか。つまり、社会科は「知識をおぼえればよい」という考えから脱皮して、学習したことをもとにして社会全般へ目を向ける力がついてくるであろう。

3. 「評価活動の例」の考察と今後の問題点

「国家とは何か」を理解させるために、学校と比較させることにより、国家を構成する三要素に気づくことがこの話し合いの目的である。「主権」ということは自体は理解できなくても、国会とか裁判所とかいった内容面は把握されていることがわかる。教師はこの内容から、本時の目標に対する生徒の知識・意識の程度をつかむことができる。

また、確認課題の「学校間の交流と国家間の交流では、どんなちがいがあるか」のならいで、国家を構成する最も重要な要素である「主権」についての理解を確認すると同時に、つぎへの意欲づけ、発展的問題への把握へと、興味・関心をつなげている。国境の問題、他国の領海に入ることへの問題が話し合いによって導きだされてきたことは、主権の平等、国際関係への問題へとその内容がより深く、より発展していっていると解釈してよいと思う。

上述のことから、社会科におけるバズ活動と評価活動によって、生徒たちは、つぎのように変容しつつある。

- o 1時間の授業で、単に部分的な内容を理解するにとどまることなく、すでに学習した内容を新しい視点から見直すことができるようになってきている。
- o 発展的課題に気づくことにより、興味、関心を喚起し、つぎへの学習意欲を促している。

このように、社会科のねらいとする意識の変革を、確認課題による即時評価という方法によって継続的に、かつ多方面から培うことができる。しかし、即時評価の方法、評価のとらえ方、確認課題のとりだし方など多くの問題を山積している。

◎課題：学校と国家のちがいがいから国家を構成する要素を考えよう。

(話し合いのメモ)

- K. 学校には自衛隊がない。
- I. 一定の領土に住んでいるのが国家で学校には定住していない。
- M. 国家は民族によってわかれているが、学校は分かれていない。
- Y. 自国の空を他国の飛行機がとんでいたらそれをうちおすと国もあるが、学校の上を飛行機がとんでいたとしてもそれをうちおすと権利はない。
- H. 学校には国会とか裁判所がない。
- K. 学校は独立性がなく、たえず外部からかんしょうされている。
- M. 学校には産業がないが国家には産業がある。
- Y. 国家には領土に他の国からの侵略などしりぞけることができるが、学校では運動場に入っはいけないといえない。

◎確認課題：学校間の交流と国家間の交流ではどんなちがいがあるか。

(気づいたことのメモ)

- 日本では国境が海だからあまり気づかなかったが、西ドイツと東ドイツは同じドイツ人なのになぜ国境があるのだろうか。
- 南ベトナムだったか、政府とかが一つではなかったようだったがどうなっているのだろうか。
- そういえば漁にでいて外国の海まで入っていつつかまったという話を新聞で読んだことがある。
- 国家と国家とは、平等だというが、そうでもないような気がする。

◎評価表 H I K M T Y

iii. 数学科での実践

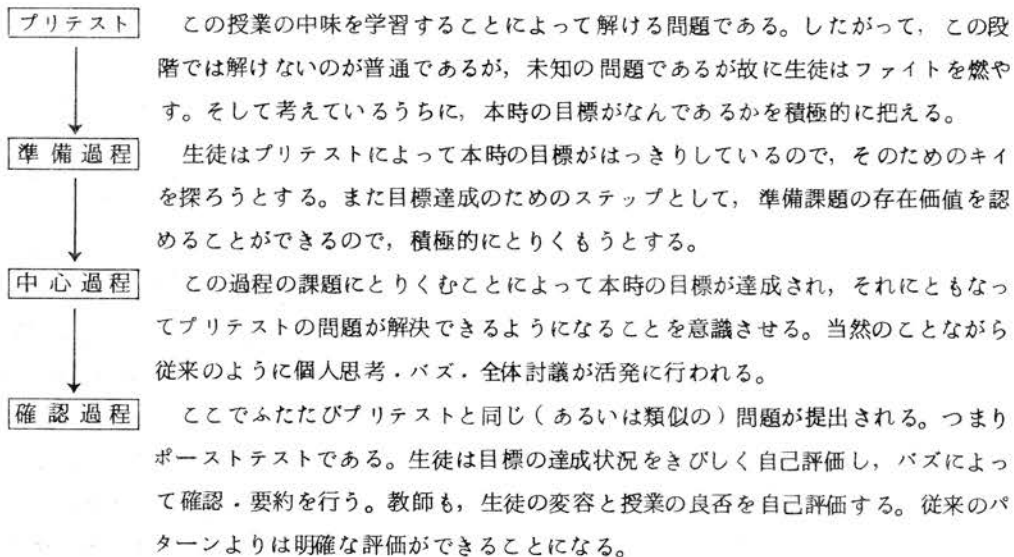
1. 一般的な授業の流れの中で

評価活動は授業のあらゆる場面で行うことができる。たとえば課題提示の場面で「課題の意味がわかったか」という評価は必要だし、課題へのとりくみ自体がまさに評価活動そのものであるといえる。さらにバズの場面では、説明する側の生徒は、その過程であやふやのところができたり、「なぜ」と問われて自分にもわからないことに気づいたりする。説明を聞く側の生徒は「どこがわからないか」を確かめながら聞かねばならない。ある意味では、バズ活動自体がひとつの評価活動であるといえる。いわゆる相互評価である。

このように評価活動が他の学習活動と密接に結びついているのは事実であるが、それだけに、生徒は意識しようとしまいと自己評価をやっているということで、わたしたちは甘んじてきた。それを意識化させることの意味や値打ちはよく理解しつつも、なかなかとりくめなかった。

しかし、評価は、もともと目標があって、その達成状況を正確に判断し、そこで自己を調整し、次の目標にたちむかうというものであらねばならないということになると、今までの評価に対する考え方は甘かったと言わねばならない。教師の側が評価というものを、授業の中で意識的に位置づけねばならないのである。

従来の授業の組み立ては、準備・中心・確認の各過程で、課題提示 → 個人で考える → バズ → 全体討議 というパターンであったが、そこへ目標 → 評価の位置をはっきりさせ、次のように構成しなおした。



以上のような構成ならば、評価活動をとりいれるにあたって、従来の授業と較べてもさほどのムリは生じないであろう。また、プリ・ポストテストによって目標 → とりくみ → 評価の流れが

はっきりし、生徒が意欲的に活動するようになるであろう。

2. 具体的展開

ブリ・ポストテストに適した課題は毎時間の授業でできるとはかぎらない。10時間中3時間ぐらいはブリテストを行なうことができないが、そのときは目標設定を念入りに行い、あとで自己評価をするのだということを強く予告する。

最初ブリ・ポストそれぞれに別の用紙を計画していたがノートの整理に役立つということで、同じ用紙に両方の解答をさせるようにした。これが予想外に評判がよく、生徒はノートをふりかえることで、自己の一時ごとの変容のようすを知ることができることになり、次の授業への意欲につながることもあった。

さらに、ブリ・ポストの結果を右のような表にまとめ、一時ごとの自己評価を全体的に眺めることができるようにした。この表を通して、生徒は復習すべき場所を概括的に把握し、家庭学習の目標設定に役立てるようになった。

ブリテストは黒線、ポストテストは赤線でその結果を表わした。

月日	学習内容	自己評価
6/17	式の約束	
6/18	文字を使った式	
6/19	式の値	

課題	
ブリ	ポスト

3. 問題点

ブリ・ポストテストによる授業を実施しはじめてから3週間たった頃に、次のような調査をした。A学級は従来どおりの授業を行った。ただし、目標指示と評価には従来より強調したつもりである。B学級はブリ・ポストテストによる授業をした学級である。

	A (40名)			B (37名)		
	実施前	実施後	変化	実施前	実施後	変化
問1	112	118	+6	95	131	+36
問2	115	134	+19	124	145	+21
問3	123	139	+16	108	152	+44
問4	136	142	+6	149	169	+20

学習にかんするアンケート	
問1	あなたは、授業がはじまったときに「この授業ではどこを勉強すればよいのか」を考えていますか。
問2	あなたは、自分からすすんで学習しようとしていますか。
問3	あなたは「今日の授業では、これだけのことはわかったんだ」と確認していますか。
問4	あなたは、理解を確かめようことによって学習に興味があわくと思えますか。

この結果で、問1、問3におけるB学級の変化に注目したい。調査を実施したわたしたち自身がこの結果に驚き、あらためてブリ・ポストテストによる授業の意義を考えなおしているところである。しかし、授業時間(45分)に限られているので、ブリテストの時間が多くとれない。ブリポストによって中心過程がボケル危険性があることなど、問題は山積している。

IV. 理科での実践

1. 一般的な授業の流れと評価について

理科学習における一般的な学習過程について、本校では、つぎの3つの過程のサイクルとしてとらえている。

- ① 準備過程 —— 自然の事物・現象の中に疑問や問題を主体的にとらえ、自ら探究していくと意識する。(問題の意識化)
- ② 中心過程 —— 問題を解決していくための方法をくふうし、計画・準備をし、必要な資料や情報を収集し、処理する。(問題の解決)
- ③ 確認過程 —— 新しくみつけ出したことがらを一般化するとともに、自己評価し、わかったことわからないことを明確にする。(学習のまとめ)

評価の基本的な考え方としては、上記の各過程で生徒がどのように活動し、どんな変化があらわれているかを知り、その結果を授業展開に生かすような評価をすることが大切であると考えている。理科学習における学習過程とその評価の観点の基本型は、つぎのとおりである。

過程	理科の基本的学習過程	評価の観点 (●-教師の観察 ●-挙手 ◎-自己評価) (◎-相互評価 ○-ノート・レポート)
準備	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">問題の意識化</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">・学習課題表 (プリテスト)</p>	① 授業をうける準備ができているか。 ●・● (忘れ物はないか。チャイムで開始できたか) ② 学習課題表(または、プリテスト)によって、問題の意識化がなされたか。 ●・◎
中心	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">問題解決のための 情報の収集・処理</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">・予想・計画 ・実験・処理 ・考察</p>	③ 予想(仮説)を立てることができたか。 ●・○ ④ 問題解決のための実験 観察の方法や手順は、理解できているか。 ○・◎ ⑤ 協力して問題解決にあたることができたか。 ◎・◎ ⑥ 結果を一般化(モデル化・グラフ化)できたか。 ◎・○ ⑦ 相互に意見を出し合い比較・検討し、ともに高め合うことができたか。 ◎・◎
確認	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">学習のまとめ</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">・学習課題表 (またはポストテスト)</p> <p style="text-align: center;">(次時へ)</p>	⑧ 学習課題表(またはポストテスト)によって、わかったこと、わからないことの区別がはっきりしたか。 ⑨ 簡単な問題でもおろそかにせず、相手が納得するまで説明できたか。 ◎・◎ ⑩ 実験のあとかたづけを他人におしつけず、係分担は責任をもってあたることができたか。 ◎・◎

2. 評価の具体例

(1) 学習課題表による実践

理科学習においては、右のような単元ごとの学習課題表をつくっている。このねらいのひとつは、その単元の目標や学習内容を事前に知らせ、学習意欲を高めるとともに、学習の方向性や目標の明確化をはかることであり、もうひとつは、本時の学習内容を事前を知るにより、実験・観察や学習資料等の準備を生徒が自主的におこなうようになることをねらっている。

また、この課題表の右端に評価の欄をつくり、本時(単元)の学習の理解度を自己評価させるように配慮している。

(2) プリ(ポスト)テストによる実践

本時(単元)を学習するにあたって、まず、プリテストを行っている。この内容は、基本的事項の確認、本時(単元)の学習内容に対する予想、生徒の先行経験的なものとし、これにより問題の意識化をはかるとともに、その結果を授業展開に生かすことを狙っている。

また、ポストテストでは、学習事項の確認、進捗状況などを評価させ、次時への手がかかりとする。

学習課題表とプリ(ポスト)テストをとり入れた授業実践をおこなった結果、『・授業が楽しい。・学習内容がよくわかる。・テストをするのでわからないことがはっきりする。・授業の準備ができる。』など、従来の授業に比較して、学習に積極的にとりくむようになり、相互活動も活発になってきた。しかし、この反面、『・授業が延長する。・ムダ話が多くなる。』などの問題も出ており、こうしたことについての指導の配慮が必要である。

わたしたちの研究実践は、はじめたばかりであり、いろいろな問題を残している。しかし、このような授業展開で理科の教師が全員でとりくんできたことは意義があると思う。

3. 問題点

- プリテストの結果を授業展開にどのように生かすか。
- 学習過程の基本型は、どのような単元に有効か。
- 即時評価をどのように記録し蓄積していくか。

理科学習課題表

単元 物体の運動		3年組 番氏名〔 〕			
時	課 題	準 備	評 価		
			プリテスト	ポストテスト	
1	・いろいろな運動のようすを分類しよう。		0 1 2 3 	0 1 2 3 	
2	・運動のようすを記録する方法を考え腕の運動を記録しなさい。		0 1 2 3 	0 1 2 3 	
3	・時間と距離と速さの間にはどんな関係があるか。		0 1 2 3 	0 1 2 3 	
4	・記録タイマーの精度を測定しなさい。		0 1 2 3 	0 1 2 3 	
5	・振り子の周期・振幅・長さの間にはどんな関係があるか。		0 1 2 3 	0 1 2 3 	

<p>植物はどのように栄養分を得ているか。 <植物の成長のもとになるもの></p> <p>1. ヒメジオンがあるところには、オオバコが育たないのは、 (1) ヒメジオンが養分をとってしまうから。 (2) 葉に日光があたらなくなるから。 (3) ヒメジオンが毒性の物質を出すから。</p> <p>2. オオバコがあるところには、ヒメジオンが育たないのは、 (1) オオバコが養分をとってしまうから。 (2) 踏みつけられると、茎がおれてしまうから。 (3) オオバコが毒性の物質を出すから。</p> <p>3. 植物は、栄養分をどのように得ているか。 (1) 根から、水を吸収して育つ。 (2) 葉で光合成をして養分をつくって育つ。 (3) 葉の気孔から、空気中の養分を吸収して育つ。</p> <p>4. 光合成の原料となるものは、つぎのどの物質か。 (1) 水 (2) 日光 (3) 葉緑素 (4) 二酸化炭素 (5) 酸素 (6) でんぷん</p> <p>5. 「植物は、水を吸収して成長する」と考えたのは、 (1) アリストテレス (2) 現代の科学者 (3) ヘルメント (4) 鈴木梅太郎</p>
--

V. 音楽科での実践

1. 一般的な授業の流れの中で

(1) 基本的な考え方

音楽科においては、「実際に出される音によって、いろいろな評価活動をしていこう」というのが、本校の音楽部会で取り上げられた、評価についての基本的な考え方である。音楽の授業では、生徒が理解したか、しなかったか、というようなことよりも、生徒がどのような演奏をしているかとか、どのような表現をしているか、ということの方が、より大切なのではないだろうかと考えたのである。

(2) 教科としての試み・計画

上の基本的な考えを実行に移すために、次のようなことを話しあった。

- 授業の中に、小人数で発表させる機会を多くつくる。
- お互いに演奏を批評しあうことによって、自分自身、また自分の属する班の向上をはかる。そして、具体的に次のようなことを試みてみることにした。

ア. アルトリコーダーの練習

学年に応じたアルトリコーダーの練習曲を与え、それを班ごとに練習させて、班内で相互評価させる。

イ. 歌唱練習

階名唱や歌詞唱は、できるだけ班ごとに練習させ、いくつかの班に発表させる。他の生徒は、それを聞いて批評する。

ウ. 音楽の理論など、理解を要することからの評価

授業の終りに確認のための小テストを行ない、生徒が理解しているかどうかを教師が評価する。

2. 具体的展開

(1) アルトリコーダーの練習

授業のはじめ10分間は、二重奏を主にしたアルトリコーダーの練習をさせる。二重奏を通して音楽の楽しさを味わわせ、あわせてアルトリコーダーの演奏技術も向上させたい、というのがねらいである。生徒が意欲を持ってとりくめるように、各班に一枚ずつ進度表を持たせ、班員全員が演奏できるようになってから次の曲に進む、という方法で、お互いに協力しあい、また刺激しあいながら一曲一曲をマスターしていけるようにした。また、教師は、曲の進みぐあいよりも、班内でいかに協力して教えたり、学んだりしているか、人間関係はうまくいっているか、ということを中心に考えて指導をすることにした。

(2) 歌唱練習

知らない曲でも、階名を読みながらメロディーをつけて歌えるようにしたい、という目的で、

階名唱・歌詞唱はできるだけ生徒の力だけで歌わせることにした。新しい曲を授業でとりあげる時は、まず班ごとに練習をさせる。そして、できるだけ多くの班に発表をさせ、他の班は次のことについて評価をさせる。

1. 全員が声を出しているか。
2. グループでまとまった声になっているか。
3. 音程やリズムが変だなと思ったところはなかったか。あったとすればどこ（何小節目）か。

また、各班の練習時の態度などは、主として教師が評価する。

(3) 音楽理論など理解を要することからの評価

他の教科で実施されているポストテストと同じような考え方で、小テストを行なう。今日の授業で、自分はこういうことが理解できたということを確認させるために、個人評価をさせる。

3. 評価活動の例

(1) アルトリコーダー進度表

アルトリコーダー進度表											
1年 3組 6班											
曲名 氏名	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
竹之内 康 恵	9/16	9/16	9/17	9/17	9/23	9/30	10/1				
古 田 治 美	9/16	9/16	9/17	9/17	9/23	9/30	10/1				
吉 沢 敬 子	9/16	9/16	9/17	9/17	9/23	9/30	10/1	10/1			
小 林 司	9/16	9/16	9/17	9/23	9/23	9/30	10/1				
富 田 淳	9/16	9/16	9/16	9/17	9/23	9/30	10/1				
林 英 己	9/16	9/16	9/17	9/17	9/23	9/30	10/1	10/1			

4. 問題点

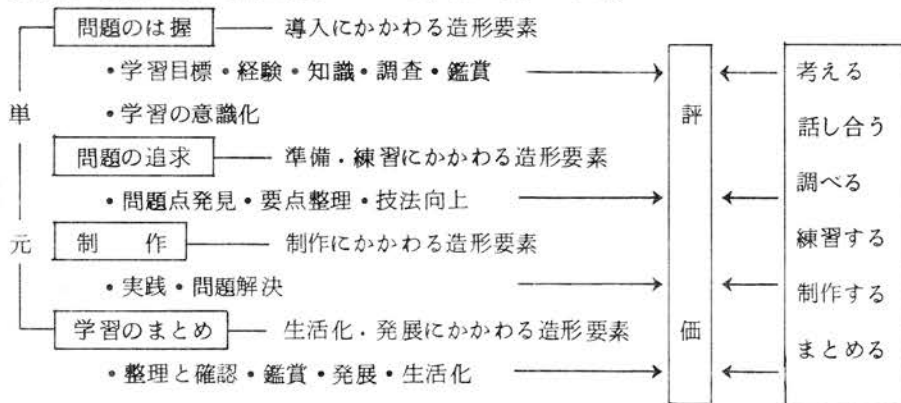
- o 生徒同志が審査をやると能率は良いが、基準があまくなりやすい。
- o どうしてもアルトリコーダーが吹けない生徒がでてくるが、そういう生徒にどう指導していくか。
- o 一年生は、班活動に興味を持って積極的に活動するが、高学年になるにつれて班活動が不活発になる。
- o 小テストの処理をどうするか。

VI. 美術科での実践

1. 一般的な流れの中で

美術科の学習は継続の学習である。一時間一時間の学習の流れを大切に、計画性ある制作をしているかどうかが作品の良し悪しに影響してくる。そのためにもよほど厳しい学習のねらいをたてないと制作意欲（学習意欲）の継続にならない。評価活動で大切なことは、一時間一時間の指導のねらいをはっきりさせ、造形要素（学習内容）を生徒がどこでどのように学習したかをつかませることである。それと生徒が、造形要素を自らは握り目標をたてて制作しながら自己評価をしつつ、次時への学習計画を密にたてることが目的である。生徒が目標に向けてどう学んでいるか、作品制作の過程が効果的であるかを生徒自身、班相互、教師の三方向からチェックすることである。ひいてはこのことが、生徒ひとりひとりの指導のねらいをはっきりさせることにつながり、個性豊かな表現力のある作品を制作する道を開き、学習の流れを定着させる結果となるであろう。

美術科の授業の流れを図式化してみると下記ようになる。



2. 具体的展開

授業が制作中心の学習であるため、課題に対しての本時の目標指示と重要事項の確認が特に大切である。授業の流れは、それぞれの課題にせまるように個人思考から相互思考とし、次に制作段階では、個別指導（即時評価）⇄相互評価、そしてまとめでは次時への制作計画のめどをたてさせる方法をとっている。以下授業の展開例の概要を示してみる。

授業展開例 「視覚的デザイン」

授業過程	活動内容	評価
○ 準備課題	○文字、配色、構成の検討	○前時の重要事項の確認
・個人思考	・意図すること、創意くふうすることは何か考える。	○文字、配色、構成が主題にあっているか。
・相互思考	・相互に作品の良さを発表する	○思考が深化されたか。
・教師のまとめ	・制作計画を明確にする。	○制作計画が明確になったか。

○ 中心課題 ・個人思考 ・個別指導 ↓ ○ 確認課題 ・個人思考 (自己評価表) ・相互評価 ↓ ・教師のまとめ	○制作計画に従って彩色 ・配色計画に基づいて制作する。 ・アイデアを生かす適切な技法を知る。 ○制作中におちいりやすい問題 ・観点別に気づいたことを記入する。 ・今後留意することを確認する。 ・次時の制作計画のめどをたてる。	○技法を生かした配色ができたか。 ○よい着想ができたか。 ○造形要素が理解でき、意欲的に制作できたか。 ○応用、発展的課題に着眼できたか。
--	--	--

3. 評価活動の例

計画性のある学習をし、どう意欲的に妥協しないで制作しているかによって学習効果が変化してくるものである。いかに作品に取り組むか~~~~とりわけ態度的なねらいが大切になってくる。そこで学習のめあてに従ってどう作品が変化したか(自己変容)を評価し、次時への発展をはからねばならない。ここに自己調整の意味で以下に示す学習表の記録による実践を行った。

美術科学習表

単元 「視覚的デザイン」

時間	造形要素	反省	評価					
			A	B	C	D	E	
5/12	配色について	①明度差を考える			◎	○		
		②主題となる図柄が目だつように	・図柄はよく目だつが文字が目だちにくくなった。			◎	○	
		③混色による工夫した色彩	・灰色を混ぜたらよい色ができた	○				
		④ムラのないようなぬり方	・白を混ぜたらムラが少なくなった	○				

注(自己評価は○ 相互評価は◎ 教師の評価◎)

美術科学習表を使い始めてからの生徒は、互いに批評し合う鑑賞力も身につく、自ら課題を見つけだし意欲的に取り組むようになり、作品にも変化が現われてきた。それと表現力も豊かになりつつあるので課題にせまる発展性ある評価活動が定着するまで積み重ねて行きたい。

4. 問題点

- 美術科におけるブリ・ポストテストの効果的な取り扱い方について問題が残っている。
- 学習表による評価段階において、D、Eの生徒を、反省のもとにいかにか次時からの活動が深まってくるかを見てやる必要があるであり、そして観点別に指導することは大切であるが、必要にして十分な手だてをつかむことが今後の問題として残されている。

Vii. 体育科での実践

1. 授業の流れのなかで

学習指導過程をどのように取らえていくかは、大小さまざまな取らえ方があるが、学習場面の構造から考えれば次の三つの過程が設定される。準備・中心・確認の三つの過程である。これらの学習場面にはそれぞれの目的・性質を持った課題が凝らされている。体育科は三つの過程を次のような段階として取らえ、その段階に適した課題はこうあるべきだと考えた。

〈準備過程〉 → とらえる、もつ段階とし、本時のねらい・中心課題のイメージ化を含んだ課題を設定している。基礎的な技能を獲得しやすいようフィードバックしやすい課題もある。

〈中心過程〉 → はたらきかける段階と考え、本時学習内容の中心技能を実践、再実践から学びとらせる内容をもった課題を設定されねばならない。教師側は、課題を取りくみやすくくつき、練習によって何を身につけるかを明らかにし、とくに、思考と実践のずれを技能面と体力面から追求していくよう示唆してやらねばならない。この過程における課題は、取りくみにより技能が定着化することねらったものでなければならない。

〈確認過程〉 → たしかめ身につける段階とし、確認、発展的な課題を提示しなければならない。中心技能を身につけた力で、その発展として何をなすべきかに取りくませるようにし、未定着のものに対して、フィードバックの機会となるように配慮し、確認、転移、応用、発展的課題に目を向けさせようとしていく必要がある。

2. 具体的展開

課題が設定されれば、必ず、評価がなされねばならないという学習の原則を考えたとき、体育科では、評価について次のようにおさえてみた。

目標（課題）がどの程度達成されたかを即時的に明確に評価（自己・相互評価）させねばならない。ここで得た知識や技能が次の学習への大きな原動力となり、さらに生徒が次の課題の取りくみに対して積極的になると考えられる。また、教師は自己の指導目標の達成状況を知り、課題の構成やそれへの取りくませ方を評価し、生徒のニーズに答えべく次の授業の指針を知ることでもある。

実際の評価活動では次の二点に留意しながら実践に移った。

- (1) 評価の目的を学習指導の過程でのフィードバックをねらいとする。
- (2) 授業の効率化上、評価活動を学習過程に位置づけが必要である。

この位置づけをするためには、授業をシステム化しなければならないと考え、次のようなシステムを組んだ。すなわち、目標があり、その中から生徒の実態にあった目標を選ぶと必然的に内容が規定されるので、教師はそれについて指導計画、指導活動をたえず修正してそれに応じて生徒がより高度に学習を積み上げていくようになる、というようにである。

3. 評価活動の例
(学習の流れ)

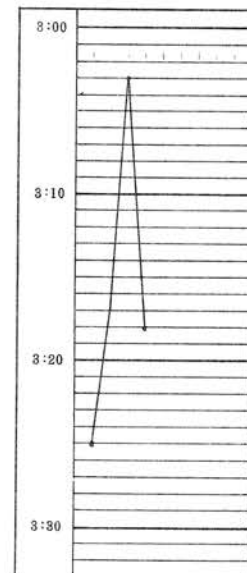


この学習の流れで、生徒は技能獲得のための知識や方法をつかみ学習活動を展開していくわけであるが、生徒の学習を援助するため、また、フィードバックの機会を設け、技能獲得、定着、発展のために技能評価表を与えている。もちろん、教師自身の力量を高めるためにも。

技能評価表は、球技にしぼり、楽しくゲームができるようにねらっている。また、個々の体力を知るバロメーターとして毎授業の初めの部分に長距離走を実施し、記録をさせ、意欲的に取りくませている。その他、数年前つくった鉄棒運動のプログラムを実践させ、より効果的に取りくませ併せて、プログラムの修正を試みている。

スキル	段階	評価項目	到達段階						備考
			なまえ	青木	今村	水谷	丹羽	梶田	
上手パス	1	顔の正面でボールをキャッチできる。	○	○	○	○	○	○	
	2	相手に正確にパスできる。		○	○		○		
	3	コートの中衛からネットを越す。		○	○				
	4	コートの後衛からネットを越す。		○					
下手パス	1	ボールを受ける位置が定まらない。	○	×	×			○	○
	2	だいたい正しい位置で受けられる。		○	○	○			
	3	ボールの方向が定まらない。		○					
	4	相手に正確なパスができる。		○					

スキル	段階	評価項目	なまえ	到達段階						
				川合	山田	横井	石黒	松原	加藤	おぎの
キャッチ	1	よくキャッチミスをする。		○	○	○	○	○	○	○
	2	ミスはしないが、次の動作がおそい。		○	○	○	△	△	△	△
	3	キャッチして、すぐパスできる。		○	○	△	△	△	△	△
パス	1	8mはなれた相手にボールがとどかない。		○	○	○	○	○	○	○
	2	正しい位置に投げられる。		○	○	○	○	△	○	○
	3	はやく、正確にパスできる。		△	○	△	△	△	△	△



4. 今後の課題

課題を意欲的に取りくませる、理解の促進、技能の定着化という所期の目標は微力ながら少しずつ取らえることができるようになったが、バズ活動の効果的な位置づけ、教材の構造化、精選化、個別指導の適正化、評価後の処理といった点で問題点は多多残されているわけである。また技能面での即時評価面はある程度出来るが、健康・安全、社会的態度の評価ができていないといった点で今後、おおいに考えねばならないが、生徒の意欲的な取りくみをよりどころとして、さらに、望ましい評価のあり方について研究していきたい。

VIII. 技術・家庭科の実践

1. 一般的な授業の流れの中で

技術・家庭科の学習では、大別して「実践」・「知識」・「思考」の三つの活動が考えられる。そして、これら三つの活動は、それぞれが異なった場所や時間でばらばらに行なわれるものでなく、とりあげる領域や題材によって、その軽重はあっても相互に有機的にかかわりをもっていないなければならない。

すなわち「作るという活動から、知る活動を可能にする思考」であり、「知る活動から作る活動を可能にする思考」を意味しているのである。一例をあげると、本時の目標が、「ピストンの材料を知る」であるとすれば、その目標にせまるためのステップである分割目標の「ピストンの材料の条件を調べる」や「ピストン内部が中空である理由や、アルミニウム合金を用いる理由を調べる」などは「ピストンを分解し観察する」から中心目標である「アルミニウム合金を用いる理由を知る」に到達するための不可欠な思考活動なのである。

ところで一方、この一連の活動の流れが、基本的には準備—中心—確認という授業展開そのものでもあれば、「観察し、分解する」については、「分解方法、工具の使用法、観察の観点などについてはよいのか」、「調べる」については、「調べかた、調べることのねらい、比較検討の資料は生かされているのか」、「知る」については、「どんなことが理解でき、何が自分のものになったのか」など各過程における分割目標への「確かめ」を重視せねばならない。

そうでなければ、区分ごとの達成状況を正確に判断し、そこで自己調整することによって次への目標にたちむかうことはできないからである。

これまででも、バズ活動そのものとおして、生徒たちは、意識しようとしまいと結果的には相互評価をしているし、教師も課題提示の場面や学習目標のおさえで、「わかったか」という評価をしてきたが、それらが授業の展開をみとおしたうえでの計画的で意図的な位置づけであったとはいえない。ここで、いままでの反省にたち、プリ・ポストテストをとりいれた学習活動の組み立てを考えた。

授業が、実践を中心としたものか、知識・理解を中心としたものかによってねらいや方法は異なってくるが、試みの例として次の二つをあげてみた。

- 既存の知識や理解の程度を測定するだけでなく生活経験の有無を知り授業の展開に生かしたり、本時の目標達成のための動機づけができるもの。
- 生活経験や既習した事項が土台となって、それとのかかわりのなかから目標到達のための手がかりがつかめたり、できなくても、学習への興味、意欲づけがなされ、目標への焦点化が期待できるもの。したがって、目標にせまる問題と、それを解くについての基礎的知識である既習事項の問題を意図

例 本時の目標：目的にあった木材の選び方に気づく。
杉材の中心に近いほうと樹皮に近いほうとを比較して次の表の正しいほうに○をつけなさい。

	樹心に近いほう		樹皮に近いほう	
1. 水分	多	少	多	少
2. かたさ	かたい	やわらかい	かたい	やわらかい
3. 色	黒	赤	黄	白
4. 役 割	大	小	大	小
5. 強 さ	強	弱	強	弱

例 本時の目標：2サイクル機関のしくみを知る。

- ① 4サイクル機関の4サイクルという言葉にはどんな意味がありましたか。
- ② 2サイクル機関とは、どんな機関だと思えますか。

的に並列に出題し①②の関連がわかるようにする。

本時の目標がプリテストで焦点化されているから学習内容の中心に迫るための基礎的事項、必要事項のおさえがなされる。分解・観察等の実践から、気づく、調べるといった低次元での思考活動があり、ここから問題点の整理、把握につながる。

この過程の課題にとりくむことによって本時の目標達成がなされることを意図的に導き、つくる、測るなどの実践や、準備過程での基礎的思考とがからみ知識と技能が一体化される。そして、当然ここでは、課題と思考のずれや思考結果との対比などで活発な相互評価ができる。

中心課題を解決した力でもって、その発展として「何ができるか」に取り組んだり、学習したことの中味の整理や計画と実際とのくいちがいについての反省から、次時への発展をねらう。

学習内容によってポストテストの位置づけや意味合いが多少かわることもある。たとえば、製作など実践が主になる授業では、確認過程において、実習記録などに進捗や出来ばえなどの自己評価をする場合もあるし、プリテストとのかかわりにおいて、②の問題を再度とりあげ、できるだけ詳しく論文形式で書かせることもある。書くという行為をとおして、本時の学習の中味を論理的に整理し、「わかったところ」、「あいまいなところ」、「わからないところ」を明らかにし、きびしく自己評価させるとともに、その結果から生徒の変容を知り、教師自身も援助活動の良否を自己評価することになる。

2. 具体的展開と評価活動の例

教科のねらいに照らして適切な課題とそれに対する評価が客観的にできるように、学習活動のなかにプリポストテストをとりあげ、評価活動の計画的な位置づけを考えた。(一年木材加工より)

〈本時の目標〉加工法の研究と略構想図を加工法から検討し修正することができる。

注：観・教師観察 補・教師補足説明 選・機・机間巡回援助 自・自己評価 相・相互評価

授業の流れ	学習課題	評価
意欲化	○プリテストをせよ。 ○本時の目標を確認せよ。	・学習意欲はたかまったか。観・自 ・目標をつかむことができたか。観・補
準備過程	製作に必要な加工法を調べよ。	
知る	○加工法を調べよ。 ・板材を切りとる工具、表面けずりの工具にはどんなものがあるか。 ・接合にはどんな方法があるか。	・自分で考える一環で発表。相 ・教科書で調べる。自 ・班でまとめる。相 ・発表。補
中心課題	加工法から略構想図を検討し修正せよ。	
考える つくる	○加工法的面から検討し修正せよ。 (切断はしやすいか、接合はしようぶか、自分でできる接合法か。)	・検討する。自 ・プレゼン・ストーミング。相
確認過程	加工法を知り略構想図の修正ができたか。	
整理 次時へ	○ポストテストをせよ。	・目標へ到達できたか。自・相 ・本時の復習課題、次時学習課題の確認(知学活・家庭学習へ)(感想文)

プリポストテスト

切断に使われる工具

① 直線部分

② 曲線部分

表面けずりの工具

③

接合法

④

⑤

⑥

自分で加工できる構想図がかけたか

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

⑲

⑳

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

○

×

プリポストテストからの各時間ごとの目標到達プロフィール

時	小単元目標到達プロフィール										到達目標(○×)					
	5	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	1	2	3	4	5
1																
2																
3																
4																

生徒の変容(評価表より)

既有知識を含め1時間の到達目標のプロフィールによって個人の理解度を知り、更に理解を深めようと努力することができる。

3. 問題点

プリ・ポストテストを授業展開の中で有効にいかそうと思うと綿密な教材研究に基づいたものでなければならないし、45分の限られた時間内で毎時間行なうことの時間的しわよせや、自己評価と相互評価とのかみあわせによって、より客観的な評価に高めていかねばならないなどの問題点ができています。

IX. 英語科での実践

1. はじめに

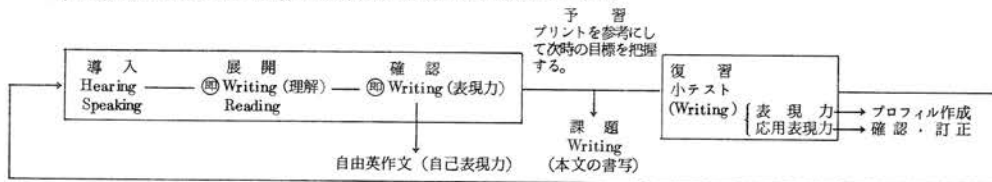
ここでは、英語教育全体についての評価を述べるのではなく、言語学習そのものについての評価について考えてみることにする。現在、「英語学習」において評価を考えると、「試験」「テスト」による評価が多く実施されている。それはあくまでも教師側の評価で、生徒個々に対する指導の手立てとしては行なわれていないのが実情ではないだろうか。英語学習の目標は一般に4技能を達成することにある。英語学習の評価の領域は、Hearing, Speaking, Reading, Writingである。(音声の評価……Hearing, Speaking, 文字の評価……Reading, Writing)

これら4技能の要素を事後テストとしてだけでなく、1時間の授業の中で即時的に評価することを考えてみる必要がある。授業の中でこの4技能を評価するとは、復習→導入→展開→確認の中で考えることである。4技能の学習のうち高次元であるWritingの評価を取りあげたのは視覚的に言語の習得をすることによってより定着度が深まると思われるからである。ここでは殊に、Key Sentence(重要文型・表現)をいかに習得させ、どのように評価するかを考えてみた。これによって、授業のポイントになる文型だけでも正確に理解でき、さらに「英語を書く」ことが向上するであろうと思われる。

2. 具体的展開例

(1) 1年英語科評価の実践例

下の図は1年生の1時間の評価を図示したものである。



ア. 導入段階では文型練習を口頭で十分に行なう必要がある。

イ. 展開段階では理解度を評価するもので、それほど高度なものを要求しない。

ウ. 確認段階では既習の単語を用いた文型を表現できたかを評価する。自由英作文は、文型を使って自分の表現したいことを自由に書かせる。(教師後日添削指導)

エ. 復習段階では新出単語を用いた文型、応用文型が表現出来るかを評価する。(確認・訂正を確実にする。自己評価表を作成する)

(2) 2年英語科評価の実践例

2年生では、Writingの評価を、復習→導入→展開→確認の中でも殊に、“導入”“確認”の段階で、Key Sentenceを書けるように、また文型が十分理解できたかどうか評価する必要がある。それを意図的にしかも即時的に評価する方法を実施している。即ち、即時評価表のもとに、即時評価の位置を次のように試みている。

ア. 復習→導入→即時評価→展開→確認

イ. 復習→導入→展開→確認→即時評価

その他にも評価方法として、復習の段階での小テスト（Key Sentence と Words の書き取り）→自己評価表による評価のもとに指導の手がかりを把握するように努めている。

(3) 3年英語科評価の実践例

3年生では、英語の既習の文型や語彙が豊富になってきているから、確認の段階で、Key Sentenceが特に自己表現出来るように指導している。従って、各Partでの確認テストを行ない、出来あがった文を班の中でお互い発表し、相互評価をする。そして身のまわりのことを自己表現できるように努めている。さらに、自己評価表を作成させている。

3. 評価活動の例

(1) 即時評価表、自己評価表

P	Key Sentences	意味	文型	課題	解答	W	G	E
1	I am going to Play the piano tomorrow. Are you going to play the piano tomorrow? Yes, I am. No, I'm			(1) 私は今夜テレビを見るつもりである。 (2) あなたは今日の午後、野				

Key Sentences.		Test on Each Part.	Test on Each Lesson.
		109876543210	109876543210
L10(1)	How many pencils do you have? I have two (pencils).		
(2)	I have a cap and a hat.		

月	日	課	P	基本文型	出題者 班 氏名	累計 得点	自己評価 プロフィール

(2) プリ・ポストテスト

ENGLISH TEST-PRE			ENGLISH TEST-POST		
2-	№	Name	2-	№	Name
1.		It is very difficult.	1.		It is very difficult.
2.		It is a very pretty doll.	2.		It is a very pretty doll.

4. 問題点

自己評価をすることによって、学習を自分のものとしてある程度把握するようになってきている。また、自分がどこでつまづいているのかを明確に知ることができるようになってきている。さらに授業での「課題」をはっきりと、とらえることができるようになってきている。しかし、まだまだ次のような問題点が残されている。

ア、他の3領域に比して書く能力の差が著しい。

イ、書くことに時間がかかりすぎる。

ウ、評価後の指導に十分な時間が見出せない。

エ、プリ・ポストテストが、すべての授業に適用できるとは限らない。

X. 特殊学級での実践

1. 指導方針

- ・障害に基づく心身の未発達や欠陥・能力の遅滞を補ったり克服したり、心身の調和的発達を図る。
- ・正しい生活態度・習慣を身につけ、社会生活に必要な基本的な知識・技能を養う。
- ・集団生活の中で個別指導・班指導（バズ活動）をとおして個々の能力を伸ばす。
- ・日常生活に必要な国語・数量など処理する能力を養う。
- ・作業学習をとおして、職業生活に必要な技能・態度を養う。

2. 生徒の実態

名前	学年	性別	I.Q.	
H.F	8	男	80	かるい先天性小児麻痺で、手足がやや不自由。性格は明るく、学級内で一番理解度が高い。
T.A	8	女	54	2年生の時、怠学欠席が多かった。無口であるが、歌は好んで歌う。
K.S	8	女	50	情緒障害、自分勝手な行動をとる時もあった。
E.N	8	女	80	やや言語障害であるが、何事も積極的にやり、学級のリーダーである。
K.T	2	女	69	1年の時、登校拒否、両親無関心で、自己中心的であったが、学級の仲間づくりから欠席も少なくなってきた。
K.A	1	男	53	落ち着きがない。授業中でも無駄口が多い。人なつっこい面もある。
T.H	1	男	63	言語障害で口かずが少ないが、1年生の中では一番理解度が高い。
Y.Y	1	男	66	おとなしい性格。何事も遅い。社会科が得意。
S.K	1	女	44	世話好きであるが、ややルーズな面がある。

3. 特殊学級の評価についての考え方

特殊学級は、養護学校の指導要領を参考にして、教育課程を編成し、それによって指導をすすめている。

評価を学業中心に考えると、もともとよい学業成績を上げることの不可能な精薄児は、浮かび上がってしまい、学習意欲を低下させ、はては性格さえも歪めてしまうことになる。一人一人の能力差が大である個々の学習内容の異なる彼らに、序列をつけたとしても、それは無意味なことではなからうか。

では、何を評価するのか。それは、彼らに最も欠け、かつ、最も必要な社会生活への適応能力だとか、将来の生活に直接役立つ必要最少限のこととか、彼らにとって伸びる可能性のある面などを考慮して目標を決め、その目標がどの程度達成できたかを評価しなければならない。学習時における即時評価においても、その時間、次の時間と、学ぶ楽しさや発見する喜びがでるような評価をしてやるように、心がけてやらなければいけない。

4. 実践（事例研究）

(1) 意志表示ができるようになったY君（1年男）

Y君は、入学時より、自閉症のためか、人間生活の基本である言葉や意志表示をどのような型にもあらわさなかった。そこで、このY君の口から一言でもよいから、言葉がでて学級内に

とけこんでくれないものかと考え、次のような指導をした。

「おはようございます。」などの挨拶や、返事は、「はい。」と、はっきり言えるようにを学級の目標とし、友達・教師の結びつきを深くするねらいで、毎日、教師の方から話しかけるようにしていった。放課時など、できるだけ手を握って話しかけたり、短学活や班活動時においても、無理をしない程度に返答を強要し続けた。

クラスの生徒の温かい接触、根気のある個別指導などによって、6月頃、やっとY君は意志表示や返事ができるようになってきた。しかし、日常生活をするうえでは、まだまだ充分なものではなかった。そこで、何よりも自信をもたせることが大切だと考え、Y君の得意とする日本地図を、みんなの見ているところで黒板に書かせたり、返事などをした時には、みんなの前で誉めてやることにした。

こんなことがくり返されるうちに、10月頃には、自分から話しかけたり、イヤなことは「イヤ。」と、意志表示ができるようになり、学習面や生活面にも、自主的・意欲的なところがみられるようになった。

(2) 計算ができるようになったK子(3年女)

K子の入級は、49年4月からであった。入級前の普通学級でのK子は、学業遅進のためか勉強嫌いで、学級内でも自分勝手な行動をとり、授業妨害や乱暴をし反抗的で、いつも教師から数多くの指導をうけていた。また、学級内の班員たちも、K子を仲間に引き入れようとしていると努力したが、登校拒否をするようになった。

その後、K子は2年生になって特殊学級に入級。入級に対しては、本人・両親共に相当な抵抗があったが、入級した以上、何とか普通の生徒と同じように楽しい学校生活を送れないものかと、K子の長所であるような所を見つけ、それを伸ばすように指導した。

その一つとして、社会適応の一要素である数の処理能力を身につけさせることから始めた。具体的には次の4点である。

- ・数に対する抵抗が強かったので、生活単元の中で抵抗のない程度に興味をもたせた。
- ・朝の短学活でK子に合うような問題でドリル学習を行った。
- ・日常生活を通して、具体例で数概念を身につけさせるようにした。
- ・面接を多くとり、K子との心のつながりをもたせ、班で親しく話し合えるように指導した。

この結果、「 $2+3$ 」の加法も指を折ってでもできなかったが、加減乗除ができるようになってきた。計算に自信がもてるようになってからのK子は、性格も明るくなり、安定感がでてきた。時には、計算ドリルを求めたり、今まで嫌いだった数学の授業を楽しむようになってきた。また、班での話し合いも避けることなく、積極的に参加できるようになってきた。

訂 正

- P 1. 上から20行目 カハ→が。
- P 5 表の過程・確認欄の下
話し合う－時間の評価→話し合う→－時間の評価。
- P 6 校舎平面図2の9第8分科会の会場→体育館に変更。
1の5(公)国→中止
- P 7 《英語科》の目次の下 《 特殊学級 》
15 塚本 昇
- P 8 1行目 単元→題材
- P 9 下から10行目 説明し合う→説明し合う。
- P 20 6～9行目 第1時～第4時→第1次～第4次
- P 31・33 15、16行中心課題のA～Z→教科別分科会で説明。
- P 44 1行目 第2学年10組→第2学年6組
- P 67 学習過程・学習活動欄 中心課題の下5行目。
発表しよう→発表しあう。
- P 72 11行目 4.準備 リポコジウム→リコボジウム。
- P 73 4行目 (1) 100 m^3 → 100 cm^3
- P 78 1行目 体育課→体育科
- P 111 会場案内図 2の9第8分科会の会場→体育館に変更。
1の5(公)国→中止